

国際脳教育協会持続可能性報告書2016

BRAIN EDUCATION

IBREA Sustainability Report 2016



国際脳教育協会 IBREA, International Brain Education Association

国際脳教育協会（IBREA）は、今日の発達した科学技術文明が人間の脳の創造性から始まったように、人類の直面している危機を解決する答えのカギも人間の脳の中にあるという認識にもとづき、平和的な脳をつくる哲学、原理、方法論を備えた「脳教育」の必要性和価値を国際社会に伝えることによって、よりよい人類の未来をつくるために設立されました。2009年2月から国連グローバル・コンパクト（UN Global Compact）に加盟しており、2010年6月には国連広報局（DPI）登録NGOに認証されました。

ウェブサイト www.ibrea.org



国際脳教育協会
2016持続可能性報告書

報告期間	2015年1月～2017年2月
報告範囲	国際脳教育協会 定款に明示された目的事業全般の内容及び持続可能性の問題
報告原則	持続可能性報告書の国際的基準であるGRI (Global Reporting Initiative) ガイドラインを市民社会団体の 特徴に合わせて構成した「NPO持続可能性報告ガイドライン」にもとづいて作成し、国連グローバル・ コンパクトの報告書 (Communication on Engagement, COE) を兼ねる形で構成しました。
報告検証	第3者検討意見 (alt. lab)
報告周期	2年
公開原則	機関ウェブサイト常時公開 www.ibrea.org
追加情報	TEL +82-2-3452-5894 E-mail prmir@ibrea.org サイト www.ibrea.org



目次

I. 国際脳教育協会紹介	機関紹介	10
	ビジョンとミッション	11
	組織構造	12
	意思決定	13
	沿革	16
II. 利害関係者 コミュニケーション	主な利害関係者及びコミュニケーションチャンネル	20
	重要性分析による主な課題	22
III. 脳教育とは	なぜ脳か、人類の未来のキーワード「脳」	28
	21世紀情報化社会、人間の脳に与える影響は？	30
	ヒューマンテクノロジー 脳教育	31
	持続可能な開発目標と脳教育	35
IV. 事業報告	一目でわかる2015～2016 事業成果	40
	脳教育グローバルネットワーク	
	アジア青年国際交流プロジェクト	42
	第1回地球市民ピースフェスティバル	54
	脳教育ブレインオリンピアド IHSP0	58
	脳教育融合コンサルティング	
	脳教育と世界市民教育の学際研究	68
	地球市民教育セミナー	82
	ベンジャミンギャップイヤー 世界市民青年講師ワークショップ	86
	脳教育情報普及	
	世界脳週間記念脳教育セミナー	90
	『ブレイン』雑誌発行	92
V. 運営の持続可能性	学会の透明性	96
	安定的、効果的な募金	100
	後援者管理	101

ごあいさつ

2015年9月、第70回国連総会で、世界の国際連合加盟国は、21世紀に人類が直面している危機を克服し、持続可能な未来を拓いていくため、17の持続可能な開発目標（SDGs）に合意しました。2016年1月に発表された持続可能な開発目標の達成のための市民社会協力という観点から、国際脳教育協会の設立目的にもとづく脳教育の様々な活動を検討、整理する作業は、「人類と地球の持続可能性」という共同の目標へ向かう意味ある時間でした。

国連の持続可能な開発目標が目指す、変化の包括的な目標達成のための幅広いパートナーシップが強調されています。17ある目標のうち目標16と目標17は、様々な利害関係者との間の水平かつ包摂的なパートナーシップを奨励するための詳しい目標を提示しています。

国際脳教育協会の持続可能性報告書は、こうした参画とパートナーシップの根幹となる組織の透明性と責務、包摂的で参画的な意思決定構造の観点から自らをチェックし、発展の方向を模索する企画でもあります。

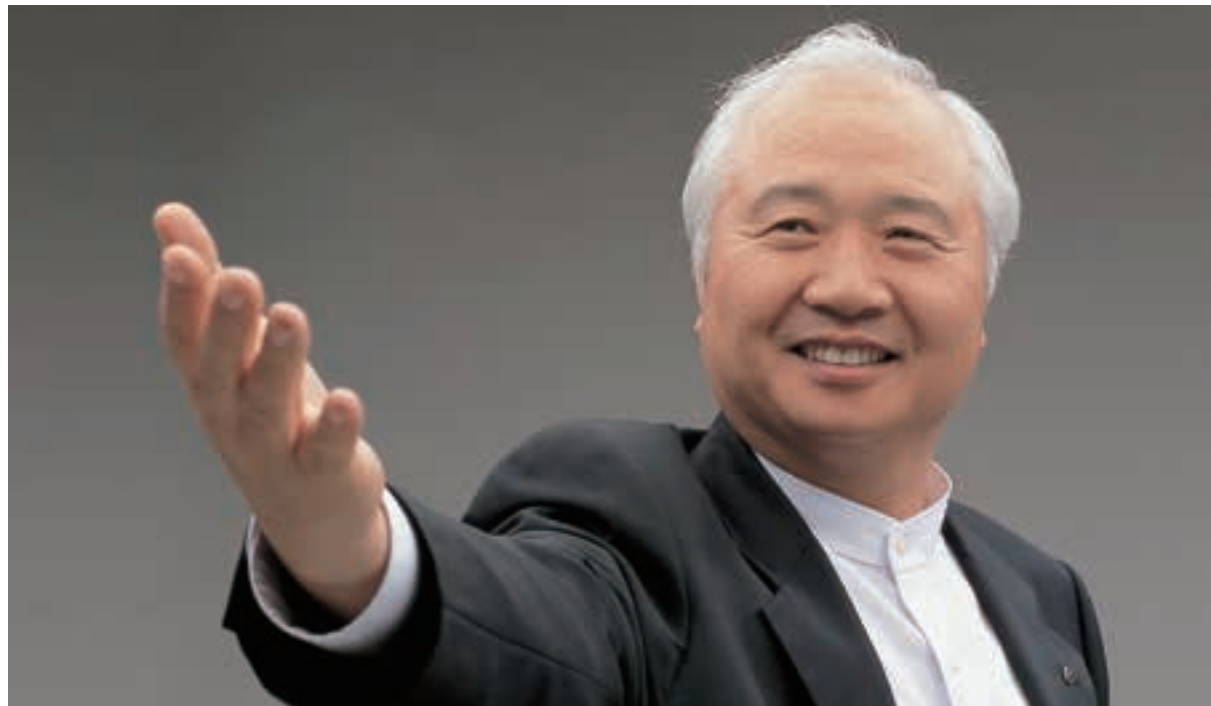
国際脳教育協会は「持続可能性報告書2016」刊行を契機に、脳教育普及の共同目標をもつ利害関係者との融合シナジーを導く方法を体系化し、持続可能な開発目標の達成のための協力事業を持続的に行っていきます。

ユネスコの21世紀国際教育委員会報告書の「教育の四つの柱」に記載されているように、教育の最終目標は、内在している人間らしさの価値を高め、それぞれの可能性を実現する人間完成です。脳教育は、人間の脳の正しい活用と開発のための平和哲学、脳の発達原理、体験的教育法を含んでいます。国際脳教育協会は、人間の脳の科学的、医学的探求を超え、根本価値を高める教育の根本目的達成に努める所存です。

国際脳教育協会事務局



国際脳教育協会会長メッセージ



「国際脳教育協会は、今日の人類文明を創造した『脳』がもつ無限の資産を正しく理解し、活用するために設立された非営利国際団体であり、国連グローバル・コンパクト（UNGC）加入団体として、国連グローバル・コンパクトの4分野（人権、労働、環境、腐敗防止）10原則を積極的に支持することを宣言します。

また、国際脳教育協会は、国連情報局（DPI）登録NGOとして、国際社会に与えられた責任と義務を果たします」

人類は、これまで経験したことのない新たな情報化時代に突入しています。すべてがつながっている社会の中で「情報」が新たな文明のキーワードとなり、人工知能技術の発達、人間とは何かというアイデンティティと人間らしさの価値を顧みさせています。

物質文明の急激な発達による地球の生態系への脅威と人間性喪失時代の中で、人類と地球の持続可能な未来への不安や恐怖は高まっていますが、その答えは結局、人間が脳をどのように認識し、活用するのにかかっています。今日の人類文明をつくったのが人間の脳の無限の創造性であるのと同じように、人類が直面している現在の危機を解決するカギもまた、人間の脳の中にあるのです。脳教育は、人間の脳に内在している人間性を目覚めさせ、回復する「ピーステクノロジー（peace technology）」です。平和哲学、脳の発達原理、体験的教育方法論にもとづく脳融合教育として、すべての人が人間らしさの価値を回復し、人がそれぞれにもっている創造性の開発を促します。体と心の司令塔である脳を活用する教育を通して、人間は自然の一部だということに気づいて内なる生命力を回復することにより、自然知能を目覚めさせる「ヒューマンテクノロジー（human technology）」でもあります。

主な先進国は、人類の未来の資産であり、科学の最後の領域である脳の研究に集中して投資しています。これにより、物理学、科学、生命工学、認知科学、心理学など、あらゆる分野で融合研究が活発に行われています。人間の脳についての深層的な研究成果は、学問の発展はもちろん、健康、教育、文化など、社会全般において、脳への認識を深めるのに役立つことでしょう。

しかし、科学の進歩がもたらす人間の脳に関する知識の重要性は、結局のところ、正しい脳の活用にあります。脳は、基本的に情報処理器官です。同じ情報でも、どのように処理し、どのように脳を開発するのか、また、どのような方向性を追求するのかによって、まったく異なる結果がもたらされます。

すべてがつながっている情報化時代では特に、情報が脳に大きな影響を及ぼします。脳教育は、人間の脳の情報処理技術として、創造的で平和な脳をつくるために開発されました。人間の脳を、ただ研究対象と見るのではなく、活用の対象と認知するとき、人類が追求する健康で幸せで平和な人生のためのカギが、私たちの脳の中にあるということを自覚するようになるからです。

脳教育（Brain Education）は、長年の学術研究と脳科学研究、30年以上にわたる健康、教育、自己啓発など、広範な分野での適用過程を経て、世界で初めて脳教育分野の四年制大学と大学院（修士・博士課程）を設立し、学問的に体系化しました。

脳教育は、韓国の精神文化資産と21世紀の脳科学の融合です。韓国の古代文献である『三一神話』の「真理訓」には、「自性求子 降在爾脳」という一節があります。これを紐解くと、「本性に求めよ。すでに汝の脳に降りてきている」という意味です。

韓国の精神文化には、生命への畏敬の念と自然共生思想を強調した「天地人」精神、体と心を分離せずに治めた「心身双手」の生活文化、人間の意識成長の原理と方法論を備えた「孝忠道」の哲学と「精充気壮神明」のトレーニング体系、そして檀君朝鮮の建国理念であり、教育理念でもある「弘益人間」の平和哲学があります。

国際脳教育協会は、人類の意識と文明に大きな変化をもたらせるという確信と信念をもち、平和技術として脳教育を国際社会に伝えていきます。人間の脳がもつ「創造性」と「平和性」という両輪のバランスポイントを回復することによって、持続可能な人類と地球の未来をつくっていけるよう、責任と義務を果たします。

一指李承憲 国際脳教育協会会長



[UNGC10原則]

THE UN GLOBAL COMPACT TEN PRINCIPLES

人権

- 原則 1 • 企業は、国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重すべきである
- 原則 2 • 企業は、自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである

労働

- 原則 3 • 企業は、結社の自由と団体交渉の実効的な承認を支持すべきである
- 原則 4 • 企業は、あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持すべきである
- 原則 5 • 企業は、児童労働の実効的な廃止を支持すべきである
- 原則 6 • 企業は、雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである

環境

- 原則 7 • 企業は、環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持すべきである
- 原則 8 • 企業は、環境に関するより大きな責任を率先して引き受けるべきである
- 原則 9 • 企業は、環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである

腐敗防止

- 原則 10 • 企業は、強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである

国際脳教育協会 紹介

10 機関紹介

11 ビジョンとミッション

12 組織構造

13 意思決定

16 沿革

機関紹介

団体名 国際脳教育協会 (IBREA, International Brain Education Association)
協会長 李承憲 (イ・スンホン)
設立年 2004年
所在地 大韓民国ソウル特別市江南区狎鷗亭路32通り11 キャロラインタワー

事業内容

- ・脳ベースの指導：学習法研究開発
- ・脳ベースの教育法の開発及び教育現場改善のための活動
- ・研究発表会、学術大会、講演会の開催
- ・協会誌及びその他出版物の発行
- ・国内外の関連団体との交流活動
- ・脳を基盤とした教育的価値に合う広報及び後援活動
 - －国連グローバル・コンパクト (UNGC) 加入団体
 - －国連広報局 (DPI) 登録NGO
 - －脳教育グローバル中枢機関、非営利国際団体

国際脳教育協会は、21世紀の人類の未来のキーワードである「脳」という資産の正しい理解と活用のために、脳教育の開発と普及、承認、コンサルティングなどを目的に、2004年に設立された非営利国際団体です。2006年9月、教育人的資源部（日本の文部科学省にあたる）から社団法人として認可され、2008年6月、ニューヨーク国連本部にて、初の国際脳教育カンファレンスを開催、2010年6月には国連広報局（DPI）登録NGOに認証されました。2009年2月から国連グローバル・コンパクト（UN Global Compact）の加入団体になっています。

2007年11月、アメリカでの非営利機関IBREA Foundation設立を契機に、脳教育プログラムの国際社会普及、国際脳教育インターンシップ、国際脳教育カンファレンス、セミナー、ブレインオリンピアードIHSP国際大会開催、季刊誌『BrainWorld』発行などにより、国際的な脳専門コンサルティング機関として活動しています。

出典：斗山大百科事典



ビジョンとミッション

国際脳教育協会（IBREA）は、発達した現在の科学技術文明が人間の脳の創造性から始まったように、人類の精神的な価値の低下や地球の生態系の危機などの問題を解決するカギも人間の脳にあるという認識で、平和な脳をつくる哲学、原理、方法論を備えた「脳教育」の必要性和価値を国際社会に知らせることによって、よりよい人類の未来をつくるという目的で設立されました。

ビジョン VISION

「国際脳教育協会は、人類の未来の資産である『脳』の創造性を正しく理解し、活用するという脳教育の価値を高め、国際社会に伝えることによって、持続可能な人類と地球村の文明に寄与します」

ミッション MISSION

- ・[グローバルネットワーク] 脳教育グローバルネットワーク構築及びパートナーシップ
 - －国連機関と連携した国際セミナー、フォーラム、ワークショップの開催
 - －脳教育国際フォーラム及びパートナーシップ構築
 - －アジア青年ネットワーク構築
- ・[情報の普及] 脳活用の重要性和価値増進のための情報発信
 - －人類の未来のキーワードとしての脳の重要性和価値普及キャンペーン／セミナー開催
 - －脳教育雑誌発行、ソーシャルメディアで情報発信
 - －脳教育ブレインオリンピアード開催によって脳の価値を広める
- ・[融合コンサルティング] 脳教育の原理伝達による社会の分野別融合シナジー創出
 - －脳教育にもとづく未来教育モデル構築及び融合シナジー（ベンジャミン人間性英才学校）
 - －脳教育にもとづく世界市民教育開発及び公教育適用（地球市民教育）
 - －メンタルヘルス増進のための脳教育にもとづくセルフヒーリングマネジメント開発及び普及（へそヒーリング）

コア・バリュー CORE VALUE

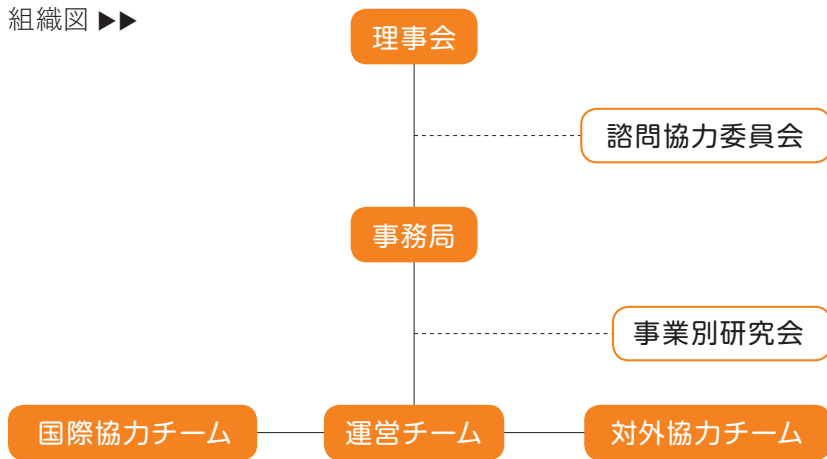
- ・水平的ネットワーク拡大による情報のつながり強化
- ・持続可能な人類と地球の生態系のための共同体文化拡大
- ・融合シナジー創出のための社会の分野別参画文化拡大

組織構造

(社)国際脳教育協会は、設立趣旨に合わせ、脳教育の社会的価値を高める非営利国際活動に重点を置き、国連グローバル・コンパクト（UNGC）加入団体及び国連情報局（DPI）登録NGOであることによって様々な分野の諮問機関や協力パートナーを置いています。

理事会がありますが、設立と運営目的によって、諮問機関と主な協力パートナーが関わる「諮問協力委員会」を置き、意見収集と意思決定の全体過程に幅広く関わるという特徴をもっています。事務局を中心に、国際協力部、对外協力部、執行部を置き、協会はソウル市江南区新沙洞に位置しています。韓国では、ソウル市教育庁（教育委員会の下部執行機関）の非営利社団法人に登録されています。

組織図 ▶▶



理事会		理事11名、講師2名（主な構成：諮問機関、協力パートナー代表）運営及び事業に対する審議・議決・諮問、事業の定期・不定期協議
諮問協力委員会		諮問機関、協力パートナー代表及び実務責任者として構成された委員会 ・諮問機関：プロジェクト実行に必要な学問的専門性、コンサルティング提供 ・協力パートナー：分野別脳教育専門機関で構成、融合シナジーを生み出す
事業別研究会		事業別の円滑な推進のための研究会設立、運営例）脳教育にもとづく世界市民教育推進－地球市民教育研究会
事務局	国際協力チーム	国連機構、海外協力パートナー機関協力グローバルプロジェクト推進管理
	对外協力チーム	諮問協力機関、後援者グループ管理 マスコミ広報、ソーシャルメディア管理、印刷物制作管理
	運営チーム	法人運営管理、会計管理 指定寄付金団体の管理

意思決定



協会の事業推進と意見収集過程において、諮問機関、協力パートナーの役割が重要です。諮問機関と協力パートナーの代表、実務責任者を含む「諮問協力委員会」が常時、意思決定ミーティングに参加します。

事業別のオフライン会議から始まり、その後はテレビ会議システムによって行います。

テレビ会議システムで、平均週1回は実務担当者会議を行い、平均月1回、諮問協力委員会会議が行われます。主な案件がある場合、該当テーマを中心に諮問協力委員が参加する専門家フォーラムを開き、話し合いによって各部門の意見を収集しています。

諮問協力委員会開催状況（常時開催除外、主な案件会議のみ記載）

開催時期	主な案件
2015年2月	2015世界脳週間記念 脳教育韓国セミナー開催 第10回脳教育オリンピック韓国大会、国際大会開催
2015年3月	持続可能な開発目標（SDGs）との連携
2015年7月	世界市民教育との連携、地球市民教育研究会発足
2015年10月	脳教育にもとづく世界市民教育の公教育適用
2016年1月	日中韓地球経営ワークショップ 済州島開催
2016年2月	2016世界脳週間記念世界市民教育韓国セミナー開催
2016年4月	慶州市 国連NGOカンファレンス参加及び活用
2016年5月	第11回脳教育オリンピック ニューヨーク国際大会開催 日中韓地球市民ワークショップ開催
2016年9月	国連グローバル・コンパクト（UNGC）報告書制作
2016年11月	脳教育にもとづく世界市民教育 ラウンドテーブル開催 ニュージーランド地球市民ピースフェスティバル及び 脳教育国際シンポジウム開催

諮問協力委員会

国際脳教育協会は、脳教育分野の国際的諮問機関、協力パートナーが参加する「諮問協力委員会」を置き、脳教育の社会的価値を共に創出しています。

1. 諮問機関

[科学技術分野]

韓国脳科学研究院
KIBS, Korea Institute of Brain Science



- ・人間の脳活用分野の代表的な研究機関（1990年設立）
- ・国連経済社会理事会（ECOSOC）協議資格取得（2007年）
- ・脳教育の独自技術BOSを開発、脳教育を重点的に研究

[学問化／人材育成分野]

国際脳教育協会
IRABE, International Research Association for Brain Education



- ・脳教育分野国際学会
- ・脳教育学の学術的発展を深め、脳関連の諸学問の融合・複合研究促進

グローバルサイバー大学
GCU, Global Cyber University



- ・4年制大学脳教育融合学部開設（2011）
- ・脳教育特化大学、感情労働教育専門機関

国際脳教育総合大学院大学
UBE, University of Brain Education



- ・脳教育修士課程、博士課程
- ・脳教育学問化の揺籃

[脳哲学／文化分野]

国学院

- ・韓民族の歴史文化哲学研究、教育機関（2002年設立）
- ・脳哲学研究及び発展



2. 協力パートナー

[海外パートナー]

ECO, Earth Citizens Organization(USA)
脳教育にもとづく地球市民運動非営利団体

Brain Power Wellness(USA)
アメリカ、脳教育教師研修及び講師育成機関

U-DAP Solution(China)
中国、脳教育研修を提供する企業

IBREA JAPAN
日本、脳教育普及活動を行う特定非営利活動法人

[韓国内パートナー]

国際脳教育協会認証院
脳教育認証機関、民間資格証発行 www.ibrec.net

ブレイントレーナー協会
脳教育／脳トレーニングの政府公認ブレイントレーナー資格公式協議機関
www.brain-tr.org

(社)韓国脳教育院
脳教育研修機関、教師研修団体、人間性教育 www.hanedu.com

(株)BR脳教育
児童・青少年の脳教育代表企業、ブレインコーチング専門教育機関 www.brainedu.com

(株)キッズ脳教育
乳児・幼児の脳教育教育企業 www.brainddori.com

(株)HSPコンサルティングU-DAP
脳教育にもとづく産業教育専門企業 www.u-dap.com

ブレイントレーニング コンサルティングセンター
脳にもとづくコンサルティング及びトレーニングセンター、脳トレーニングと薬に頼らない解決法を提供
www.brain-training.co.kr

(社)青少年メンタルヘルス人間性教育協会
脳教育にもとづく青少年人間性専門教育機関、青少年メンタルヘルスケア
www.youthinsung.org

ダンワールド
ブレイン瞑想専門教育機関、脳教育にもとづく大人のメンタルヘルスケア
www.dahnworld.com

ブレインワールドドットコム
脳教育ポータルサイト
脳教育雑誌『ブレイン』オンラインサイト運営
www.brainworld.com | www.brainmedia.co.kr

沿革

2004.11.15	国際脳教育協会設立
2005	脳教育学術大会（第1～4回）開催
2006.9.15	ソウル市教育庁 社団法人認可
2006.10.28	社団法人創立記念第1回国際脳教育シンポジウム開催（於 高麗大学）
2007.12.15	脳教育雑誌『ブレイン』韓国脳科学研究院共同発行参加
2008	日本脳教育協会（IBREA JAPAN）特定非営利活動法人登録
2008.3	世界脳週間記念韓国15都市脳教育セミナー開催
2008.6.20	国連本部国際脳教育カンファレンス開催（於 ニューヨーク国連本部）
2008.8.12	脳教育オリンピックアードIHSP0第4回国際大会開催（於 ニューヨーク国連本部）

2009.1	国連本部メンタルヘルス脳教育セミナー開催（於 国連ジュネーブ事務局）
2009.2.15	国連グローバル・コンパクト（UN Global Compact）加入
2009.2	CONGO（国連経済社会理事会 NGO協議会）参加（於 タイ）
2009.3	国連グローバル・コンパクト韓国協会（UNGC-Korea）加入
2009.6	国連環境計画（UNEP）10億本植樹キャンペーンのパートナーに指定される
2009.7.6	国連年次閣僚級会議メンタルヘルス脳教育セミナー（於 国連ジュネーブ事務局）
2009.8.15	ブレインアートフェスティバル開催（於 NY ラジオシティ・ミュージックホール）
2009.10.28	国連環境計画（UNEP）「70億本の木を植える」感謝状を受理
2009.11.13	国連グローバル・コンパクト日中韓ラウンドテーブル参加

2009.12	国連枠組条約「Seal the Deal」キャンペーン参加
---------	-------------------------------

2010.1.8	ニューヨーク・ソウル「ニューヨーク市脳教育の日」1周年記念セミナー同時開催
2010.1.19	地球市民運動、UNEP国連枠組条約キャンペーン参加の感謝状を受理
2010.5	脳教育オリンピックアードIHSP02010記念韓国14都市セミナー開催
2010.5.12	国連グローバル・コンパクト腐敗防止シンポジウム参加
2010.6.30	国連広報局（DPI）NGOに登録される

2011.6	韓国教育科学技術部の脳科学・教育融合政策課題に参加（グローバルサイバー大学）、脳科学を基盤とした学生の創意性・人間性の涵養及び学習能力向上に関する研究
2011.11.27	第7回国際ブレインHSPオリンピックアード開催
2011.12.17	KOICA（韓国国際協力団）民間団体事業発掘支援団体に選定

2012.4.21	韓国第1回ブレインエキスポ開催（於 コ엑クス）
2012.6	KOICA民間団体事業発掘支援の現地調査に選定
2012.7	韓国教育部グローバル教育支援事業パートナー参加、エルサルバドルの生徒の感情コントロール及び自己肯定感向上のための公教育支援（脳教育コンサルティング及び専門教員育成）
2012.8	ブレインエキスポ、脳教育セミナー開催
2012.10	KOICA民間団体事業発掘支援で現地調査を実施（リベリア）
2012.11	地球温暖化と国連活動国際セミナー（後援：グリーンクロス）

2013.1	韓国9都市でメンタルヘルス講演会開催（李承憲国際脳教育協会会長）
2013.8	中南米脳教育広報大使任命（グロリア・ミュラー校長、ホキンス・ロデスノ校、エルサルバドル）
2013.8	青少年メンタルヘルスシンポジウム開催「脳、幸福教育を語る」
2013.10	IBREA JAPAN、日本ユニセフ協会へ寄付（シリア緊急募金）
2013.12	韓国企画財政部の指定寄付金団体に指定される

2014.4	パラグアイ教員韓国訪問団に脳教育国際研修実施、忠清北道教育庁「2014パラグアイ教員招待教育情報化」国際研修
2014.5	韓国教育部後援「2014青少年メンタルヘルスシンポジウム」開催、脳科学を基盤とした人間性教育としての脳教育の効果
214.10.19	第9回脳教育オリンピックアードIHSP0開催

2015.3	韓国国際協力団（KOICA）「日中韓開発協力とグローバルCRSフォーラム」参加
2015.3	「持続可能な開発のための教育（ESD）と脳教育」
2015	脳教育専門家フォーラム開催
2015.5	「国連グローバル・コンパクト Korea Leaders Summit 2015」参加
2015.7	国際脳教育協会傘下「地球市民教育研究会」発足
2015.11	脳教育にもとづく世界市民教育セミナー開催（於 国際脳教育総合大学院大学）
2015.12	日韓グローバル人間性英才キャンプ及び日韓青少年未来教育フォーラム開催（韓国・済州島）

2016.2	日中韓地球経営ワークショップ及び日中韓地球市民青年フォーラム開催（韓国・済州島）
2016.3	世界脳週間記念 韓国18都市脳教育セミナー

2016.3.17	16カ国参加世界地球市民運動連合大会共同開催（韓国・ソウル）
2016.4	「持続可能な開発目標（SDGs）の理解と参加フォーラム」参加（主催：UNGC-Korea）
2016.4	「2016COEワークショップ」参加（主催：UNGC-Korea）
2016.5	「第66回国連NGOカンファレンス：世界市民教育」参加（韓国・慶州）
2016.5	ソウル市NPO支援センター「2016持続可能性報告書発刊支援事業」に選ばれる
2016.6	青年世界市民プロジェクト支援事業実施
2016.6.12	「脳教育にもとづく世界市民教育フォーラム」開催（於 ユネスコ韓国委員会 大会議室）
2016.6.27	日中韓地球市民青年ワークショップ開催（於 統営セジャトラの森）
2016.8.2	脳教育オリンピックアードIHSP0第11回国際大会開催（アメリカ・ニューヨーク）
2016.8.3	国連「Youth Mental Wellbeing Conference」参加（於 ニューヨーク国連本部）
2016.8.4	日中韓地球市民青少年リーダーシップキャンプ開催（アメリカ・ニューヨーク）
2016.9	海外有識者招請国際交流事業、腸脳関連研究のパイオニアであるエメロン・マイヤー教授招待
2016.10.24	「世界市民教育実践と教育学のための国際会議」参加
2016.10.29	地球市民青年アカデミー、「青年の視点から見た国連SDGs」開催
2016.12.4	「脳教育にもとづく世界市民教育ラウンドテーブル」開催（於 天安国学院）

2017.1.28	第1回地球市民ピースフェスティバル及び脳教育国際シンポジウム開催（ニュージーランド）
2017.3	世界脳週間記念韓国9カ所脳教育セミナー共同開催
2017.4	国連グローバル・コンパクト持続可能性報告書提出



利害関係者 コミュニケーション

20 主な利害関係者及びコミュニケーションチャンネル

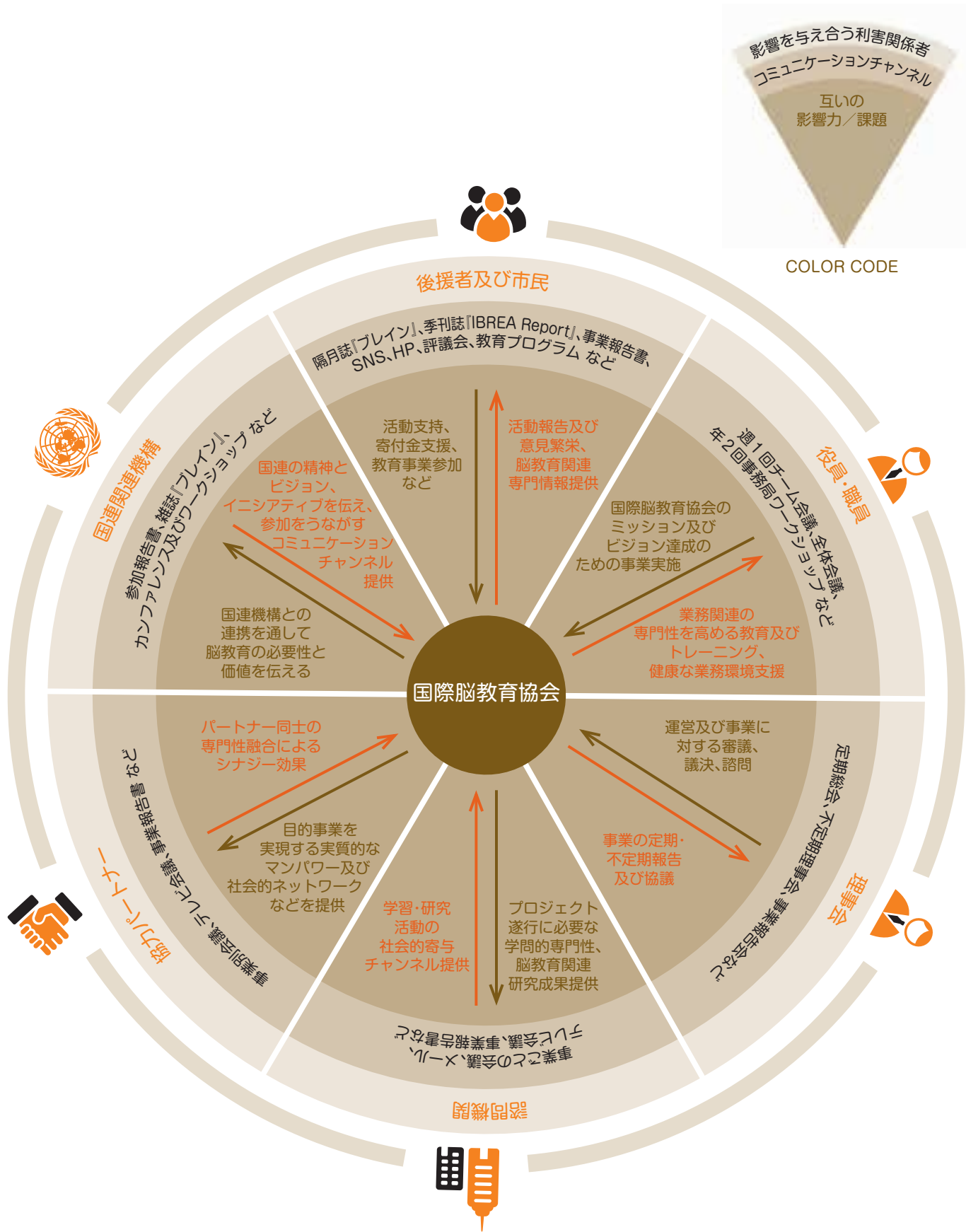
22 重要性分析による主な課題

主な利害関係者及び コミュニケーションチャンネル

国際脳教育協会は、設立趣旨に合わせて脳教育の社会的価値を高める非営利国際活動に重点を置き、脳教育関連の様々な利害関係者と諮問協力関係を結んでいます。脳教育の価値に共感する多くの賛助会員に、脳教育雑誌『ブレイン』、季刊誌『IBREA Report』、SNSを通して情報を共有しています。

利害関係者分類

外部利害関係者リスト		
後援者及び市民	個人後援	約2,000名
	機関後援	諮問機関及び協力パートナー多数
	市民	青年・青少年、講師・教師、保護者など、教育事業参加者
諮問機関	研究・学術機関	(財)韓国脳科学研究院、 国際脳教育総合大学院大学、グローバルサイバー大学、 (社)国学院、国際脳教育学会、地球経営学会 など
協力パートナー	市民社会団体	(社)青少年メンタルヘルス人間性教育協会、 各地域の脳教育協会、ブレイントレーナー協会、 地球市民運動連合、(社)韓国脳教育院、 (社)全国国学気功連合会、IBREA Japan、 Earth Citizens Organization(ECO) USA など
	企業	(株)HSPコンサルティングU-DAP、(株)BR脳教育、 (株)キッズ脳教育、ブレインワールド、(株)アイブレイン、 (株)ハン文化マルチメディア、(有)国際脳教育協会認証院、 Brain Power Wellness USA、U-DAP Solution China など
国連関連機構		国連情報局 (DPI)、ユネスコ (UNESCO)、 国連グローバル・コンパクト (UNGC) など



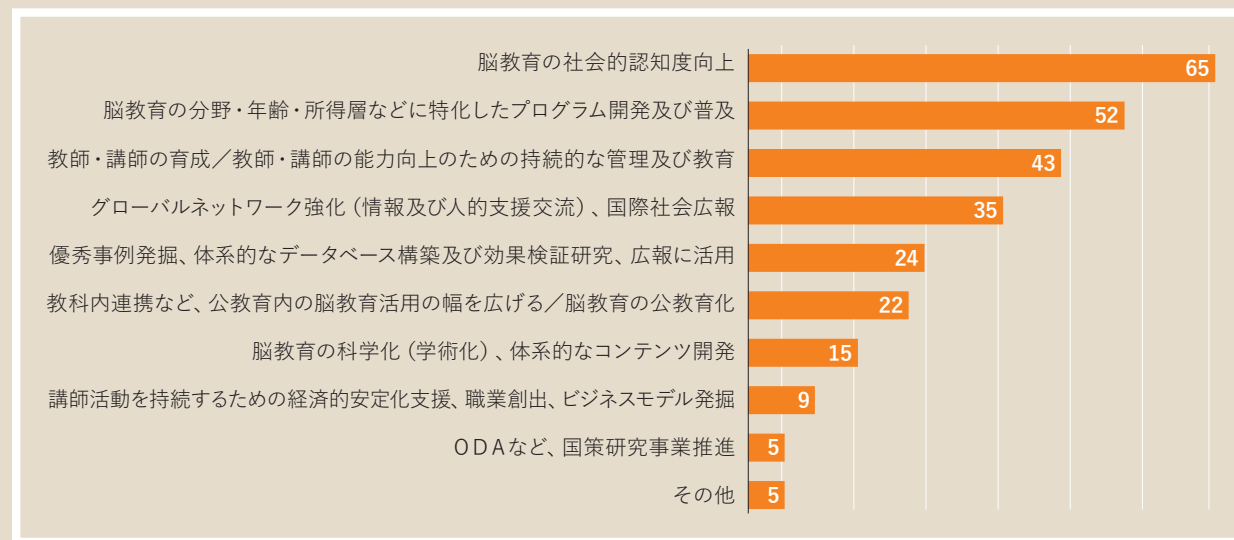
重要性分析による主な課題

国際脳教育協会が推進してきた事業の重要度認識及び運営の持続可能性を高める課題分析のために利害関係者アンケート調査を実施しました。このアンケートをもとに次のようなプロセスで主な報告課題を導き出しました。

明確な目的（ミッション）とビジョン

国際脳教育協会の持続可能な成長の土台は、機関のミッションとビジョンに対する利害関係者の明確な理解と持続的な支持です。5つの質問の結果をもとに、国際脳教育協会のミッションへの理解度を把握し、今後のコミュニケーションの主な課題を選びました。

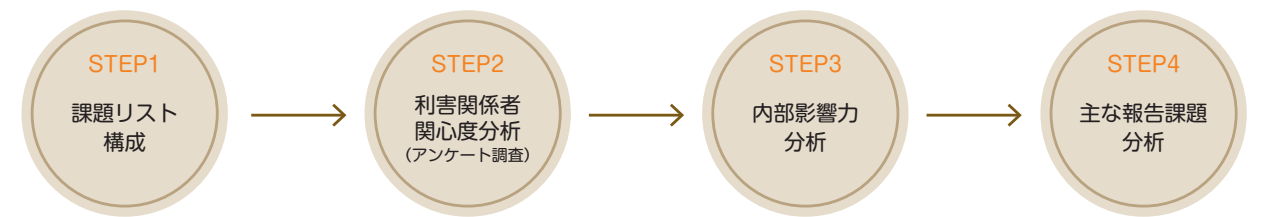
脳教育の社会的インパクトを高めるために国際脳教育協会が強化すべき分野



分析、評価、今後の課題

記述式で提示された利害関係者の回答を、カテゴリー化、頻度分析して組織のミッションと比較しました。回答者は、国際脳教育協会の役割に限らず、脳教育普及のために必要な全般的な内容を答えていました。これは、国際脳教育協会だけのミッションとビジョンについて、さらに積極的に伝える必要があることを示しています。同時に、世界の脳教育ネットワークハブとして、脳教育関連機関の目的事業に対する全般的な紹介が必要だと判断し、この報告書にその内容を盛り込みました。

主な報告課題分析プロセス



アンケート調査概要 ①調査方法：Eメールとモバイルメールでのアンケート ②調査期間：2016年10月4～31日 ③調査対象：協会の主な利害関係者383名
回答者分析 ①内部利害関係者18名：理事会13名／役員・職員5名 ②外部利害関係者365名

現在の事業の重要度



分析、評価、今後の課題

脳教育にもとづく世界市民教育開発及び普及、脳教育国際報告書の発行、日中韓青少年ネットワーク強化など、国際脳教育協会がここ2年で新たに始めた事業が利害関係者から重要だと評価されました。脳教育にもとづく世界市民教育開発及び普及事業と他の事業との差が大きい理由は、2年のあいだ、この事業への集中度が高かったからであり、今後、他の事業とのバランスを回復する必要があります。

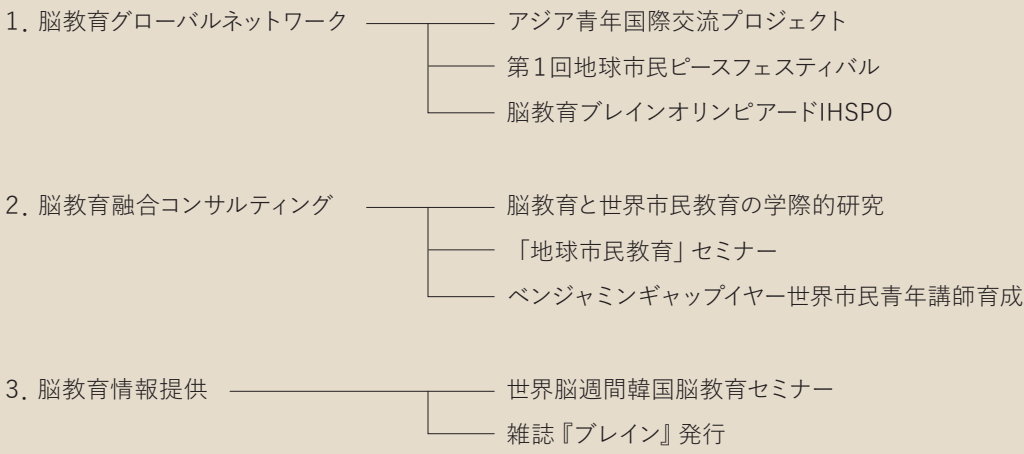
国際脳教育協会設立初期から絶え間なく行ってきた国際ブレインHSPオリンピアド国際大会開催及び雑誌『ブレイン』発行について、外部関係者は重要度を低く評価しました。これについて国際脳教育協会は、オリンピアドと『ブレイン』発行事業が様々な分野の利害関係者に与える影響力を再評価する必要があります。何より、両事業の定期的な報告がなかった点を勘案し、この報告書を通して各事業の趣旨とこれまでの成果についての包括的な報告が必要な時期です。

中期・長期事業の重要度

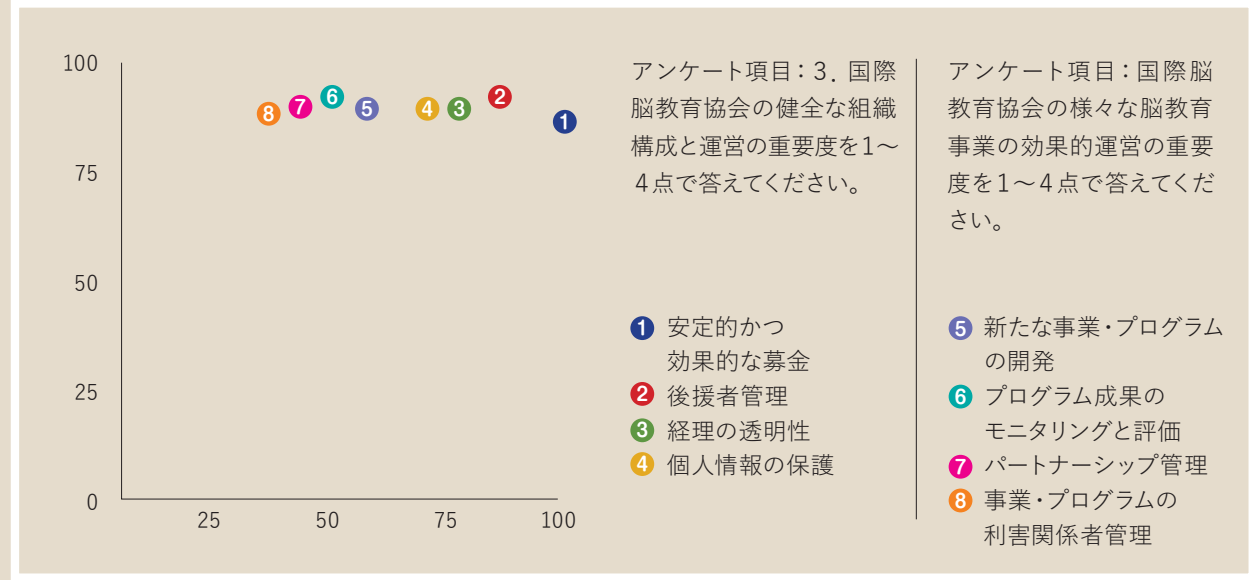


分析、評価、今後の課題

社会の様々な分野と脳教育の原理の融合によるシナジー創出のためのコンサルティング、脳教育グローバルネットワーク強化、脳活用の重要性和価値向上のための情報提供の3つの事業分野が、内外の利害関係者に重要度が高い事業と評価されました。しかし、その順位については、外部利害関係者は国内外脳教育情報提供を最も重要だと評価し、内部利害関係者はコンサルティングを最も重要だと評価しました。情報の流れという観点から、国際脳教育協会が、国内外の脳教育情報提供にさらに力を注いだときに、国内脳教育機関の能力向上に役立つかどうかという分析が必要です。本報告書には、重要性分析によって導き出された3つの事業分野について報告期間内に行われた事業を以下のように記述しています。



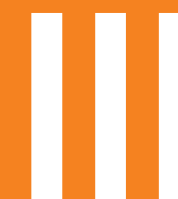
運営の持続可能性のための主な課題



分析、評価、今後の課題

「運営の持続可能性」の項目は、利害関係者対象に初めて提起するテーマだったので、すべての項目に高い関心が寄せられました。その中から、団体に与える影響を考慮して3つの課題を選び、各課題について活動内容とそれに対する成果を報告します。今後、持続可能性報告書を2年ごとに発行し、徐々に報告課題を広げていく予定です。

- 1. 安定的かつ効果的な募金
- 2. 経理の透明性
- 3. 後援者管理



脳教育とは

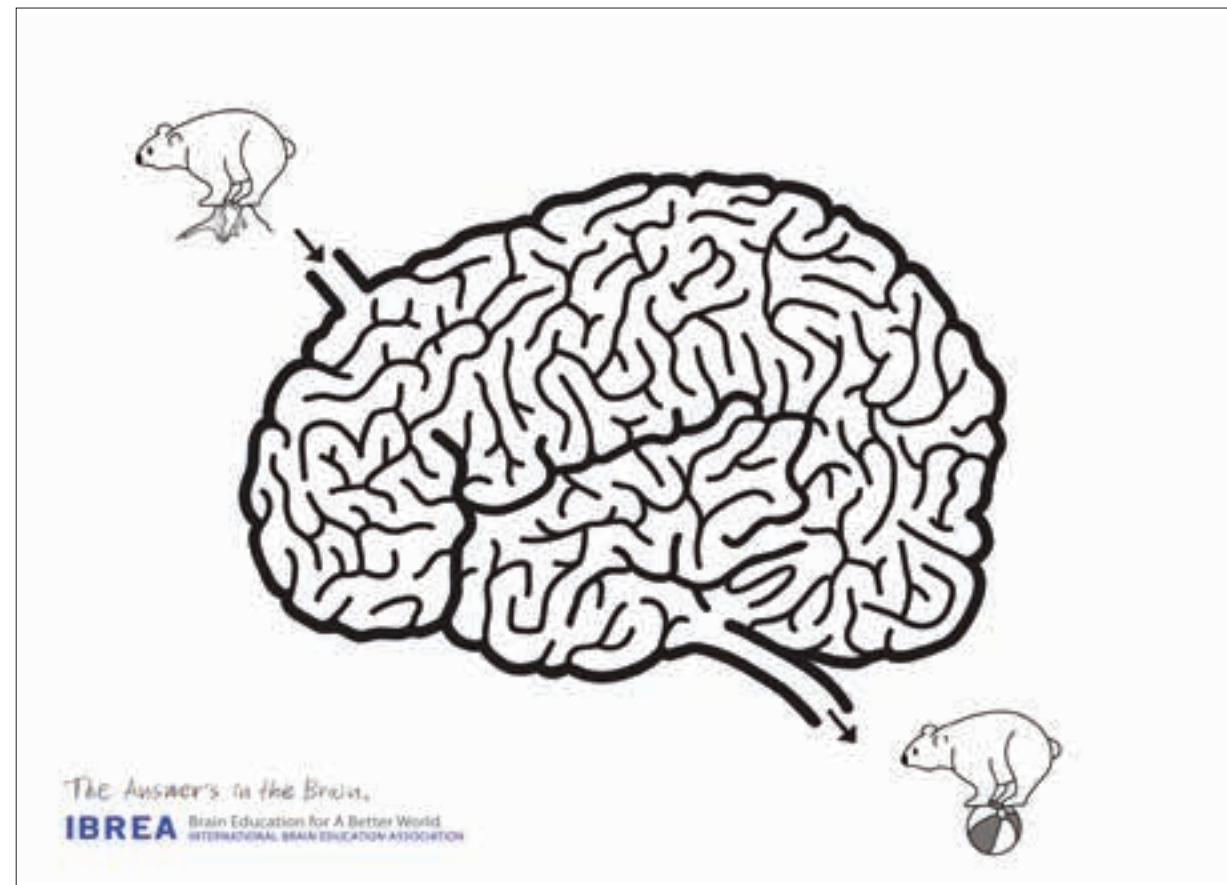
28 なぜ脳か、人類の未来のキーワード「脳」

30 21世紀情報化社会、人間の脳に与える影響は？

31 ヒューマンテクノロジー脳教育

35 持続可能な開発目標と脳教育

なぜ脳か 人類の未来のキーワード「脳」



あるじ
「私は、私の脳の主であることを宣言します」（脳教育憲章第1条）

「私は、私の脳が無限の可能性と創造力をもっていることを宣言します」（脳教育憲章第2条）

人類と地球の未来は、人間が自分の脳をどう認識し、活用するのにかかっています。遠くにいる人とリアルタイムでテレビ電話をし、半日ほどで地球の反対側に移動でき、地球外の宇宙探査ができるのはすべて、脳の無限の創造性から始まっています。

地球上に存在している生命体のうち、人間の脳ほど複雑な構造と機能をもつ存在はなく、誕生後にこれほど多く脳が変化する存在也没有。過去100年間、人類科学の頂点と呼ばれる脳科学の最も代表的な研究成果の一つに挙げられるのが、「脳の可塑性(neuro-plasticity)への理解です。人間の脳ほど、「脳は訓練すれば変化する」という主張が持続的かつ強烈に適用される対象はないというのは、驚きであるとともに明白な事実でもあります。

脳は、基本的に外部からの刺激によって発達します。胎児のときから絶えず外部の刺激を受けながら、脳は複雑な神経回路をつくり出し始めます。この世に生まれてからは、外部からの刺激がさらに大きくなります。生まれたときは300～400gに過ぎない胎児の脳が、大人になると3～4倍に増えるのは、地球上の生命体の中でも人間だけがもつ特徴です。

動物は、遺伝の影響を強く受けますが、人間の脳は遺伝と環境が合わさって変化をつくり出します。床を這いずり回ったり、よちよち歩きをする赤ん坊の動きは、脳の運動領域を発達させ、声を出して本を読みながら言葉を覚えているあいだに言語領域が発達します。つかめるものは何でも触る動作によって、脳の中の多くの領域を占めている手の様々な感覚が発達します。

人間の脳の発達は、それだけではありません。生涯にわたって行われる「学習」は、人間の脳の最も強力な特徴であり、過去と未来を行き来する想像、そして「私は誰か」に代表される内面の探索も人間の高度な精神的能力です。

脳をもつ他の脊椎動物は、時間が経っても周りの環境に大きな変化をもたらさしませんが、人間は頭に浮かべた想像を現実にする創造能力によって時間の流れそのものが環境に大きな影響を与える存在です。脳の可塑性の

範囲と本質が異なります。

大事なことは、今日の人類文明の発達を導いてきたのが脳の創造性であるように、直面している人類の危機を解決する力も人間の脳にあるということです。

21世紀を「脳の世紀(Century of the Brain)」とし、主要先進国は、科学の最後の領域と言われる脳の研究に集中的に投資しており、人間の活動の総司令塔である脳の研究には、物理学、化学、バイオテクノロジー、認知科学、心理学など、すべての分野がともに融合的研究を行っています。

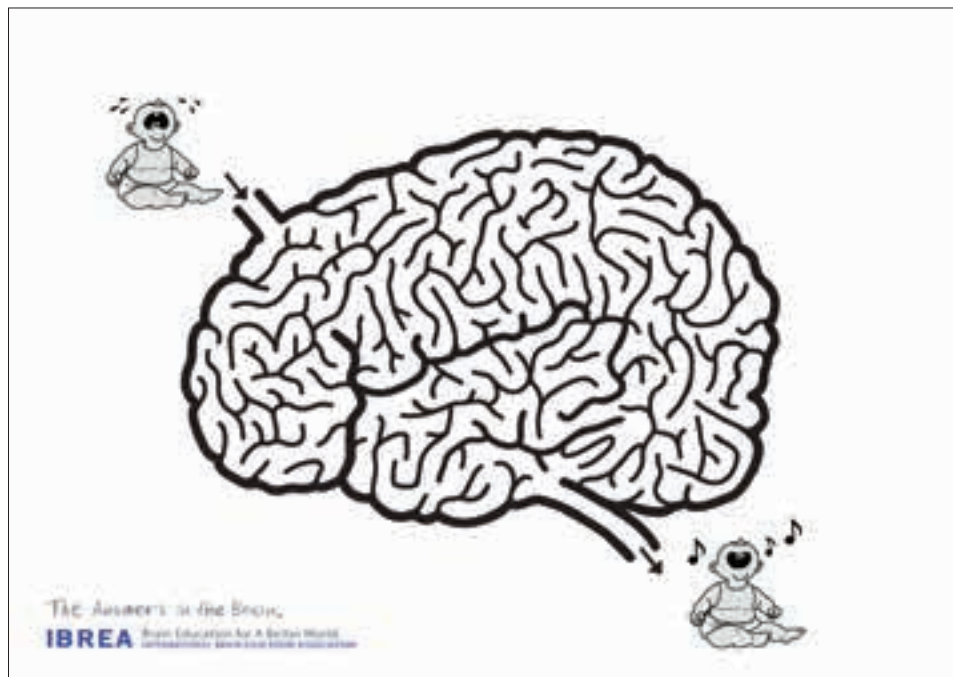
こうした脳への認識は今後、人間の脳の詳細な研究を通じて、健康、教育、文化の分野など、社会全体に広がっていくことでしょう。しかし、人間の脳に対する科学的、医学的探究が明らかにする知識よりも大事なものは、正しい使用と開発です。

21世紀の人類は、人間の脳の神秘を探究していますが、人間の意識はとても大きく、広く、深いです。生物学的な対象を超えて、脳を変化の存在と認識するとき、人間の脳の根本価値にアプローチでき、外部ではなく内面の探求が始まります。これにより、全人類が願う健康で幸せで平和な人生のためのカギが、私たちの脳の中にあると自覚できるようになります。

「脳教育(Brain Education)」は、「脳の使用説明書(ユーザーマニュアル)」であり、誰もがもっている脳を理解し、正しく活用する技術であり、学問です。21世紀脳融合時代を迎え、脳関連の様々な知識を活用して、人間の本質的な価値を自覚し、生活の中でこれを実現するための哲学、原理、方法を研究する融合的、複合的な学問として定着しています。

脳にもついた教育(brain-based education)、神経教育学(neuro-education)、そして神経建築学(neuro-architecture)も、脳融合学問の一種です。韓国は、脳教育分野の4年制大学、修士課程、博士課程を世界で初めて構築し、2009年には脳訓練分野のブレイントレーナー資格が政府公認となり、脳融合教育分野で主導的立場を確立しています。

21世紀情報化社会 人間の脳に与える影響は？



「私の脳は、情報と知識を選択する主体であることを宣言します」（脳教育憲章第3条）

持続可能な人類と地球の未来のために「脳」にさらに注目すべき理由は、20世紀のコンピュータ革命から始まった人類文明が、21世紀のスマートフォン、モノのインターネット (IoT)、人工知能 (AI)、バーチャルリアリティ (VR) など、すべてがつながっている「情報化社会」の時代に本格的に入ろうとしていることにあります。

「脳」は情報を入力され、処理して、出力する情報処理器官です。人間の脳から見た21世紀の情報化社会への進入は、「情報」そのものが脳に大きな影響を与える時代に入ったことを意味します。脳が受け入れる情報の量が過去に比べて数百倍に増加しており、情報の伝達速度と拡散が地球全体にほぼ同時に行われる時代を迎えています。

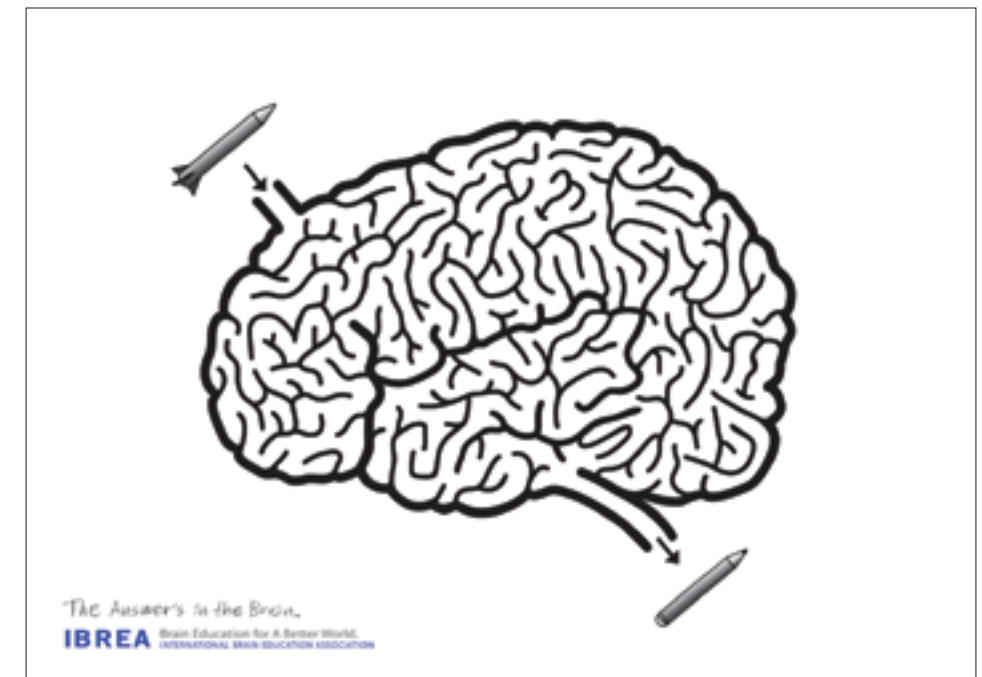
すべてがつながっている世界の中で「情報」が新たな文明のキーワードになり、その中心に脳が位置しています。情報が物質を創造する世界の中で、情報をどのように受け入れ、活用するのかが、人生に大きな影響を与える

ようになります。つまり、脳の中にある情報の質と量が、その人の行動や思考を決定づけるカギとなるのです。

つまり、大事なことは、人間の脳の根本価値についての自覚、そして正しい使用と開発です。人間の脳は、脳の可塑性の原理に従って訓練すれば絶え間なく成長する特別な構造をもっています。それならば、開発目的を失った脳、つまり方向性を失った脳は、社会にどんな影響を及ぼすようになるのでしょうか。

人間の意識の拡張と進化という観点から、究極的な脳活用の目的は、グローバルヒューマン精神をもつようにすること、つまり、人間らしい価値を自覚させることです。そのため、脳教育は、言語、人種、知識レベルに関係なく、脳をもつすべての人が平和哲学と脳の発達原理システムを会得できるような体験的方法論を備えています。脳教育は、人間の価値を高めるプロセス、または方法という教育の本来の目的を達成しようとするものであり、平和哲学である弘益人間を育てる人間完成学を目指しています。

ヒューマンテクノロジー脳教育



「私の脳は、人間と地球を愛していることを宣言します」（脳教育憲章第4条）

「私の脳は、本質的に平和を求めていることを宣言します」（脳教育憲章第5条）

人類社会は、人工知能時代にさしかかり、一部は畏敬の念を、また一部は恐れを感じています。しかし、人工知能をつくったのも結局、人間の脳の創造の産物です。今は、人工知能ではなく、自然知能に注目すべきときです。人間には自然知能があり、それは生命力を感じることで回復し始めます。

脳教育は、平和哲学、脳の発達原理、体験的教育方法論を備えており、自然知能を目覚めさせる原理と方法を提供しています。人間の脳に内在している人間性を回復する教育なので、「平和技術 (peace technology)」とも呼ばれています。

大事なものは、脳の正しい活用です。誰もが脳をもっていますが、脳を運営する原理と方法は、よく分かっていません。脳を活用する方法が分かれば、誰でも脳を開発でき、

自己価値を実現することによって自己啓発し、人格を完成させられます。脳教育を体験すると、自然に自信をもてるようになる、自己肯定感が向上する、問題解決力が高まるといったことに無限の創造性が発揮されます。

脳を、難しく近づきたい対象と思うのではなく、親しくなりながら大切な存在と認識し、自分の脳の可能性を信じ始めると、未来は違って来るはず。脳を科学的な研究対象としか見ないのではなく、活用の対象と認知すると、全人類が願う健康で幸せで平和な人生のためのカギが、私たちの脳の中にあることを自覚できるようになります。

脳教育は、人間性を回復し、クオリティ・オブ・ライフ (生活の質) を高めるヒューマンテクノロジー (HT, Human Technology) です。

脳教育 ソース・テクノロジー 脳のオペレーティングシステムBOS (Brain Operating System)

脳の中に答えがある

BOSは、Brain Operating Systemの略語。21世紀脳融合時代において、脳教育(Brain Education)の主要なソース・テクノロジーと知られており、人間の脳の根本価値の追求をもとにした脳の発達原理と科学的体系による5段階で構成されている。

脳のオペレーティングシステムBOSの今の時代における価値は、20世紀に飛躍的な発展を遂げた人類文明の象徴である「コンピュータ」がもつ限界に見いだせる。コンピュータのオペレーティングシステム(OS)は、0と1の組み合わせですべてのデジタル機器を操作できるが、人間の生活の利便性や精神的な価値は伴わず、逆に遠ざかった。

今日の人類文明は人間の脳の創造性によってつくり出されたのと同じように、人類が直面している問題を解決するカギも脳の中にある。現実には脳が描いた人生の投影であり、今日は「創造」と「平和」という人間の脳の2つの車輪のうちの1つだけを強調して歩んできた時間の結果に過ぎない。誰もがもつ脳を正しく使えていないのだ。

20世紀のコンピュータのOSが人間の生活に便利をもたらしたとしたら、21世紀の脳のオペレーティングシステムBOSは、失われた人間の脳の根本価値を回復する解決策を提供しているのだ。そのため、BOSは人間の人生の価値を高める「ヒューマンテクノロジー(Human Technology, HT)」のソース・テクノロジーと注目されている。

脳を眺める3つの次元

BOSが提示する脳運営の準備段階は、脳を眺める意識の変化だ。これまでの脳を眺める思考の枠を破り、より大きな次元で人間の体を定義することによって、体を動かしている総司令塔である脳への認識を新たにしようとするものである。脳を運営するためには、見える次元だけでなく、見えない次元のものを認識できる必要があるからだ。

人間の体は、3つの次元で存在する。つまり、目に見える物質的次元の肉体(フィジカルボディ)、エネルギー次元のエネルギー体(エネルギーボディ)、意識次元の情報体(スピリチュアルボディ)だ。脳は頭蓋骨の中にある複雑なシステムではなく、多くの神経細胞がシナプスを通してネットワーク化され、それによって情報をやりとりしている。

人間の脳は、体の中で物質でありながらも精神を含む唯一の場所であり、目に見えるハードウェアと見えないソフトウェアの両方が運営され、刻々と変化している存在だ。パソコンは、ハードウェアと

ソフトウェアを区分できるが、脳は区分できない。脳に情報が入力されると、脳回路、つまりシナプスそのものが変化しながら、ハードウェアも同時に変化するからだ。情報の入力、処理、出力の過程が、脳回路を絶えず変化させ、その蓄積された情報が現在の「脳」を動かしている。だから、自分の脳を構成している情報を選択し活用する主体が自分だと認識することが重要なのだ。その自覚と習得のプロセスがBOS5段階に入っている。

BOS5段階

脳の構造と機能から見ると、BOSの開発は、大きく3つの構造からなる脳の機能を1段階ずつ活性化し、回復していくことにある。「活性化する」というのは、本来の機能を妨げている障害を取り払うという意味をもつ。その過程で脳の各部分の機能が統合され、多くの現象が起こるようになる。

BOSは、脳の機能と統合過程に従って5段階で構成されているが、1段階「脳の間を目覚めさせる(Brain Sensitizing)」、2段階「脳を柔軟にする(Brain Versatilizing)」、3段階「脳を浄化する(Brain Refresing)」、4段階「脳を統合する(Brain Integrating)」、5段階「脳の主になる(Brain Mastering)」だ。



1段階「脳の間を目覚めさせる」は、誰もがもつ脳に存在する脳のオペレーティングシステムBOSを自覚する段階だ。普通の人には、「脳」という存在をあまり意識せずに暮らしている。脳を運営するという考えは、なおさら馴染みのない話だ。パソコンを使うのがとても日常的になって、パソコンがどのように運営されているか意識していないのと同じだ。

もしパソコンのOSの存在とその情報を正しく分かるなら、そして、そのOSを正しく使えるなら、どんな変化があるだろうか。1段階「脳の間を目覚めさせる」では、体と脳のつながりを回復することによって、脳の間を目覚めさせる原理と方法を伝える。具体的には、脳を構成している肉体、エネルギー体、情報体の3つの次元で感覚を目覚めさせる。感覚が回復すると、自分の脳の状態を

正しく観察できるようになる。

2段階「脳を柔軟にする」では、「意識」と「体」が互いに緊密にコミュニケーションできるプロセスからなっている。情報に振り回されるのではなく、情報のあるじとして選択し変化させる力を育てるのが目的だ。それによって意識が拡張し、パワーが強化され、脳を実質的に運営できる自信が形成される。3段階では、そのように形成されたパワーが、脳に深く根づいている否定的な情報を浄化する原動力として作用する。

1段階、2段階を経ると、脳の本質的な価値の自覚と心身回復がある程度できるが、根本的な脳の運営はできない。これまでの人生で形成された多くの被害者意識などの否定的な情報が脳の中に定着しているからだ。パソコンがウイルスに感染したら、パソコンが正しく作動しないのと同じだ。

3段階「脳を浄化する」は、多くの固定観念や先入観、被害者意識などをひとつずつ取り除き、本来の自分と出会うプロセスだ。否定的な情報を浄化し、脳の本来の状態を回復するBOSの重要段階でもある。自分の感情のあるじになる段階、「私の心は私ではなく、私のもの」だと体験する過程であり、純粋な状態を回復することによって統合的な脳機能の発現をもたらす基盤をつくる段階だ。1～3段階での脳の本質的な価値の自覚、脳の柔軟性回復、否定的な情報の浄化は、脳機能を完全に発揮するための土台となる。それにより、様々な脳の機能を活用できるようになる。

4段階「脳を統合する」は、偏った使い方をしていた脳機能をバランスよく使えるようにし、抑圧されていた感情中枢の機能を自由に調節できるようにする。固定観念や被害者意識として残っていた多くの否定的な情報を取り除き、萎縮している脳幹の生命中枢機能を回復し、人間の脳がもつ本来の機能を回復する段階だ。そのプロセスで脳の潜在機能が現れることもある。

最後の5段階は、「脳の主になる」過程だ。4段階までが運転免許証を取得する過程だとしたら、5段階は実際に運転しながら体得していく段階だ。現実の中で自分の脳を運営しながら、毎日脳を管理し、チェックして、習慣を形成していく。

5段階では統合した脳の創造力を100%活用するよい情報、すなわちビジョンが必要だ。脳を動かすビジョンは複雑ではなく単純で、誤解の余地がないほど明確なものがよい。脳は方向性があるときに動く典型的な複合システムだからだ。その過程で創造が起こり、BOSが脳の中に深く根づくようになる。

持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals, SDGs) と脳教育



国際社会が2000年から15年間、世界の貧困撲滅のために推進したミレニアム開発目標を中心とした国際協力体制は、経済成長と初等教育拡大などにおいて多くの成果を収めました。しかし、環境破壊の加速、富の二極化、社会不安による平和の脅威などにより、過度の経済成長を中心とした開発への反省が起こりました。このような背景から、環境、社会、経済のバランスのとれた発展を追求する持続可能な開発目標が新たに設定され、国際社会は2016年から15年間、国連を中心として協力することに合意しました。

「人間」「地球」「繁栄」「平和」「パートナーシップ」の5つの分野で17の目標からなる持続可能な開発目標は、経済的にも社会的にも発展から疎外されることなく、誰もが健康で幸せな人生を営みながら社会を通して自己価値を実現できる共通の未来建設を目指しています。また、現世代の発展と繁栄を追求し、すべての生命の土台となる地球を尊重し、次世代を考慮して実現していくことを明示しています。

持続可能な開発目標が目指す変化が包括的なため、目標を達成するには社会のあらゆる部門の変化と参加、協力の重要性が高まっています。何より根本的な変化の原動力として教育の役割が強調されています。

「教育は人間の基本的な権利であると同時に、発展のための土台となります。親は健康な出産と養育のための情報が必要です。国家の繁栄のためには、熟練の教育を受けた労働者が必要です。貧困撲滅と気候の変化への対応、そして持続可能な開発のためには、協力が必要です。パートナーシップ、リーダーシップ、そして、教育への賢明な投資を通して私たちは個人の生活と国の経済、そして私たちの世界を変化させられます」潘基文前国連事務総長

教育が知識の修得にとどまらず、個人と世界の実質的な変化の起爆剤になるためには、変化を創造する主体として「私は誰か」、そして「私には何ができるのか」について内面の情報を省察する過程が必要です。脳教育は肉体、エネルギー体、情報体としての脳の可能性と創造力を直に体験することにより、「私は誰か」という情報が拡張

するプロセスを提示しています。そして、BOS5段階を経て、自分と共同体のために肯定的な変化を創造するという渴望と自信を内面に見だし、実践するようになります。

これまで重点的に脳教育の原理と方法を融合させてきた、健康と教育の分野の持続可能な開発目標との関連を詳しく見ていきます。



健康増進と脳教育

目標3 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する (Ensure healthy lives and promote well-being for all at all ages)

持続可能な開発目標3のターゲットには、伝染病予防、妊産婦・新生児の健康増進など、既存のミレニアム開発目標として推進してきた課題に加え、これまで先進国で主に問題となった非感染症患者(NCD)の予防とメンタルヘルス増進のための目標が追加されました。

非感染症患者予防やメンタルヘルス増進のためには、何より自分の健康と幸せのための肯定的な選択と行動が重要な要素です。脳教育は本来、人間の脳がもつ自然の感覚を回復することによって、肉体的、精神的な健康を増進しようとするものです。体をリラックスさせ、ストレスを軽減し、脳を活性化するために開発されたブレイン体操、反復的な動作によって積極的に健康な脳波を形成する脳波振動、腸脳相関に関する最近の科学的研究をもとに体の健康とメンタルヘルスを同時に管理するヘソヒーリングなどはどれも、脳がもつ本来の感覚を回復するのを助ける脳教育の健康レベルの教育法です。



質の高い教育と脳教育

目標4 すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する (Ensure inclusive and equitable quality education and promote lifelong learning opportunities for all)

教育を通じた持続可能な開発と社会統合を促進するためには、教育の平等な機会を提供するだけでなく、教育の質を高めることが重要です。つまり、教育は知識と技術習得の手段にとどまらず、最終的にすべての人が自分に内在している可能性を啓発し、その可能性を自分が属する共同体で実現する必要があります。

今年で12回目を迎える脳教育ブレインオリンピック IHSP(国際ブレインHSPオリンピック)は、ある分野の知識評価ではなく、統合的な脳活用能力を評価するオリンピックとして、人間の脳がもつ無限の可能性についての認識を広め、人類が願う健康、幸せ、平和な未来を拓くカギが脳の正しい活用にあることを伝える舞台になっています。

脳教育は、ターゲット7に明示された、平和と非暴力の文化、グローバル市民の意識を広げるために誰でも近づきやすい新しい代替教育になると考えています。人種、言語、教育理解度に関係なく、誰もがもつ脳に実際に変化をもたらす平和哲学、脳の発達原理、体験的教育方法論を提供しています。

〔 脳宣言文 〕

2001年6月15日、「人間、地球、脳」についての新たな価値を確認するために、韓国で行われた第1回ヒューマニティカンファレンスに世界の有識者が参加しました。この日、李承憲会長をはじめ、アル・ゴア、ヘナ・ストロングなど、世界の有識者は、人類が直面している問題の解決策として「地球人宣言文」を採択しました。根本的な認識の転換を前提とする、この地球人宣言文を通して脳教育の哲学的根拠が策定され、この宣言文はのちに、脳宣言文に発展しました。



あるじ
私は、私の脳の主であることを宣言します
I declare that I am the master of my brain.

私は、私の脳が無限の可能性と創造力をもっていることを宣言します
I declare that my brain has infinite possibilities and creative potential.

私の脳は、情報と知識を選択する主体であることを宣言します
I declare that my brain has the right to accept or refuse any information and knowledge that it is offered.

私の脳は、人間と地球を愛していることを宣言します
I declare that my brain loves humanity and the earth.

私の脳は、本質的に平和を求めていることを宣言します
I declare that my brain desires peace.

Take Back Your Brain!

IV

事業報告

40 一目でわかる2015～2016事業成果

42 脳教育グローバルネットワーク

42 アジア青年国際交流プロジェクト

54 第1回地球市民ピースフェスティバル

58 脳教育ブレインオリンピックアードIHSP0

68 脳教育融合コンサルティング

68 脳教育と世界市民教育の学際研究

82 地球市民教育セミナー

86 ベンジャミンギャップイヤー 世界市民青年講師ワークショップ

90 脳教育情報普及

90 世界脳週間記念脳教育セミナー

92 雑誌『ブレイン』発行

一目でわかる 2015～2016事業成果

4回
324名



脳教育にもとづく世界市民教育 アドバンストワークショップ



国際脳教育協会は、2015年から15年間、グローバル教育トレンドに浮上した「世界市民教育」と未来の代替教育と注目されている脳教育のシナジーを生み出すために「地球市民教育研究会」を発足し、中学校の自由学期制用プログラムを開発しました。以後、2016年には4回にわたって342名の教師と講師が脳教育にもとづいた世界市民教育研修を受けました。これまで感情コントロールと人間性教育中心だった脳教育プログラムを、市民教育に拡張、体系化したという点で、意味ある成果でした。

62校
6,481名



脳教育にもとづく 世界市民教育の生徒向け教育



脳教育にもとづく世界市民教育アドバンストワークショップを履修した教師と講師は、2016年の1年間、62校6,481名の生徒に教育を行いました。6時限以上の1学期カリキュラムを運営したのは28校、2～3時間の特別授業を提供したのは34校でした。身体活動や省察活動など、脳教育の体験中心の学習方法が世界市民意識の向上に効果があることが事例研究を通して確認できました。

112名



日中韓青年ネットワーク



いつの時代よりも日中韓の平和的結束が要求される21世紀において、国際脳教育協会は、そのような時代の要請にあわせて国際交流プロジェクトを進め、112名の日中韓の青年が参加しました。彼らは、平和で持続可能な地球の未来のために、自ら自信をもって行動する、一緒に協力すると誓いました。

14都市



地球市民教育セミナー



「第66回国連NGOカンファレンス：世界市民教育」韓国開催を記念し、世界市民教育の必要性を伝えるために韓国14都市で地球市民教育セミナーを開催しました。生徒と保護者、一般市民約1,000名が参加し、社会に世界市民教育を伝える契機となりました。

1,100名



脳教育ブレインオリンピック IHSP0国際大会



2015年と2016年に開催された第10回、第12回IHSP0国際大会では、計1,100名の参加者が出場し、脳活用の能力を競いました。2005年に人間の脳の価値と重要性を伝えるために設立されたIHSP0は、知識評価ではなく脳活用の能力を評価し、人間の脳の無限の可能性を国際社会に伝えてきました。2016年には、国連の持続可能な開発目標にあわせて持続可能な人類の未来のための脳活用の重要性と価値を共感できる様々な関連行事を行いました。

100万PV
650カ所



脳教育専門誌『ブレイン』発行



国際脳教育協会は、設立目的にしたいが、脳教育の価値を伝えるために韓国脳科学研究院と脳教育専門誌『ブレイン』を共同発行してきました。国際脳教育協会の諮問機関と協力機関、及び賛助会員に協会誌として配布し、韓国650カ所の公共図書館や大学図書館にデジタル雑誌で提供しています。ブレインメディア (www.brainmedia.co.kr)、NAVER、Daum、NATE、googleなど、ポータルサイトのニュースサービスを通して、オンラインで記事を提供し、年間100万PVを記録しました。

3回
52名



世界市民青年講師ワークショップ



地域社会青年リーダーシップ強化のためにベンジャミン人間性英才学校共同主催で行われた地球市民青年講師ワークショップが3回開催され、52名の青年講師を輩出しました。青年講師は、韓国各地の643名の青少年に、ともに生きていく地球共同体の価値観について情熱的に語りました。

41カ所



世界脳週間記念脳教育セミナー



世界脳週間は、人間の脳への理解を助け、脳研究の重要性を一般に知ってもらうことを目的として、世界60カ国で実施されています。国際脳教育協会は、毎年3月に世界脳週間を記念して、脳教育セミナーを開催しており、2015年から2017年までで計41カ所、約1,000名の市民が参加しました。

脳教育グローバルネットワーク アジア青年国際交流プロジェクト



気候変動、経済格差の拡大、テロと平和への脅威など、21世紀の人類が直面している課題解決のカギを握るとして、国際社会は青年の情熱と純粋さ、創造性に注目しています。ともに生きていく社会を選択し実践するための根幹となる価値観が変わり、持続可能性を追求するために人類全体の生き方が変わるべき時です。既存の政治的・経済的なシステムと少数のリーダーだけでは、このような変化をもたらすのは困難です。世界経済と文化をリードする日中韓の青年リーダーが、問題解決の大きな原動力になります。しかし、これら3カ国は、歴史的にも文化的にも近い国でありながら、複雑な政治的・経済的葛藤を経験しています。どの時期よりも青少年期に、平和的結束が必要です。

そこで国際脳教育協会は、3カ国の青年を対象に、人類が直面している課題への責任と結束を強化するため、国際交流プロジェクトを進めてきました。脳教育を通して変化の主体として自信を養い、「地球」と「平和」の価値を中心に相互連帯感を強化するものです。そして、問題解決のための青年らの持続的な結束をサポートしています。



#1 済州島日中韓 地球経営 ワークショップ

青年、脳、そして地球 Youth, Brain and the Earth



気候変動及び地球温暖化の国際協力についての議論が始まってから18年が経った2015年12月、多国間の国際的な合意であるパリ協定 (Paris Agreement) が採択されました。平和の島・済州島で開催された

「日中韓地球経営ワークショップ」は、日中韓の青年とともに2020年に発効予定のパリ協定への理解を促し、脳教育を通じて地球市民運動の方向性を探る機会を提供しました。

ユネスコの世界自然遺産に登録されている済州島で、国境を越えて「地球」という共通の価値観を中心に、「一つになる」体験をする瞑想トレーニング、個人の意識と地球の未来を変える生活の中での実践「地球市民プロジェクト」について考える時間でした。ソーシャルフィクション活動を通して、また、青年の変化と実践、そして個人の連帯を通して、つくりたい地球の未来と一緒に自由に想像してディスカッションする時間もありました。

日程 2016.2.17～21

場所 済州ヒーリング瞑想センター

参加 日中韓の青年26人

主催 国際脳教育協会、地球市民運動連合

主管 済州脳教育協会

プログラム

日程	内容
2.17	オリエンテーション 21世紀の地球問題の 이슈の木を描く 呼吸瞑想、エネルギーによるコミュニケーション
2.18	済州島の自然の中で地球瞑想 [講義] 人間の脳の創造性と方向性、人類の未来の答えは脳にある [ソーシャルフィクション] 持続可能な地球のための最も重要な変化
2.19	地球経営も私の体の経営から始まる「ヒーリング武道丹無道を習う」 済州オルレ探訪「オルレで会おう私、私は○○だ」 [講義] 社団法人済州オルレ ソ・ミョンソク理事 「成功のカギはワクワクするビジョン」 [講義] 私は誰？
2.20	日中韓地球市民青年フォーラム参加
2.21	弓道、ビジョン瞑想、仕上げ



参加者体験談

「政府ではなく、日中韓の若者が地球市民の名のもとに集まり、同じ課題を一緒に悩んで多くの意見を交わして交流したことが本当によかった」
田中萩(日本)

「脳教育の理解を深める機会であり、どうすれば地球環境を回復できるか分かった。地球経営者という名前そのものがモチベーションになる」
ジュフェ(中国)

「木を見ると、一つの根からいくつも伸びているように、国が違うだけで、その根は一つだと感じた。各国の違いや弱点はあるが、共通点はいつも地球と一緒にということだ。ワークショップ期間中に脳教育瞑想をしながら、国ごとにそれぞれの歴史があるように歴史は善悪がなく、互いに尊重しあえば、地球上の多くの問題が解決できると思った」
ユビビ(中国)

「普段から地球市民や環境に関心があったが、実際に生活にどう適用すればいいか悩んでいた。今回のワークショップを通じて意識が広がり、現実の中で自分に何ができるのかを深く考える時間になった」
バクジヘ(韓国)

「環境にたくさん関心があったが、高校生のとき、このようなことを話し合える友達がいなかった。大学入試の準備で余裕がなかった。今回のワークショップで、地球環境について熱く真剣にディスカッションでき、意義深い時間になった」
ノジヒョン(韓国)

「今回のワークショップで、すべては自分から始まると感じた。3日目、済州オルレを歩きながら、今ここに集中すると、私の中でどれほど多くの自覚と変化が起こるのか、体で体験する時間だった」
ワンイェン(中国)

#2 日中韓 地球市民 青年フォーラム



「青年、脳、そして地球 (Youth, Brain and the Earth)」というスローガンの下、5日間、済州島で行われた『日中韓地域経営ワークショップ』の一環として、済州大学国際交流会館大会議室で『日中韓地球市民青年フォーラム (Korea-China-Japan Earth Citizen Youth Forum)』を開催しました。

このフォーラムは、マイクロソフトの<Upgrade Your World Campaign> TOP 5に選ばれた非営利国際団体 ECO USAスティーブ・キム理事のグローバル地球市民プロジェクト<ICARE 2020>の映像講演から始まりました。続いて、日中韓の国別「地球市民プロジェクト」を共有し、「日中韓の結束による地球経営」をテーマにした専門家招請特別講義を行いました。最後の第3部は企業経営や国家経営を越えて「地球経営」の時代を開いていくための日中韓の青年による地球市民プロジェクトの発表とディスカッションが行われました。

日程 2016.2.20

場所 済州大学国際交流会館大会議室

主催 国際脳教育協会、地球市民運動連合

主管 済州脳教育協会

プログラム

	グローバル地球市民プロジェクトICARE2020 ECO USA スティーブ・キム理事講演
1部	国別参加機関「地球市民プロジェクト」現況ブリーフィング 国際脳教育協会、YECO JAPAN YECO KOREA、(株) ホワイトホール U-DAP Solution China
2部	持続可能な未来のための日中韓精神文化の価値と青年の役割 エマニュエル・バストリッチ慶熙大学教授講演
3部	地球のための最も大事な変化、そして青年のアクション 個人の「地球市民プロジェクト」発表及びディスカッション

SPECIAL LECTURER



エマニュエル・パストリッチ Emanuel Pastreich



フォーラムには、ベストセラー『地球経営、弘益に答えを見出す』の著者エマニュエル・パストリッチ慶熙大学教授が特別講演を行い、青年たちと交流しました。パストリッチ教授は「最近、北東アジアの状況がとても心配だ。気候変動、経済格差、健全な社会の建設など、解決すべき問題が多いにもかかわらず、過去の冷戦時代のやり方で戦争を念頭に置いている人がある。深刻な政治や国際関係の中で困難な状況を解決できるのは大統領や政治家、大企業の会長ではない。青年たちが積極的に解決しようと立ち上がれば十分方法があると思う」と青年たちの積極的な行動を呼びかけました。

パストリッチ教授はフォーラム前日にも、日中韓青年ワークショップの会場を訪れ、参加者の発表を聞き、多くの会話を交わしました。楽しい出会いを終えた後、パストリッチ教授はワークショップを主催した国際脳教育協会の関係者に「日中韓の青年がこのように持続可能な地球の未来のために一堂に会したのは奇跡的なことだ。世界を変えるために多くの人が必要なのではない。この程度の人数のメンバーで始めればいい。積極的に協力するので継続的に運営してほしい」と深い共感を伝えました。



#3 日中韓 地球市民 青年クラブ結成

2016年2月に済州で開催された「日中韓地域経営青年ワークショップ」の成果を継続するための2度目の会合が行われました。「地球の日」を記念して4月26日に「フェイスブックライブ」動画配信の形式で行われ



ました。エマニュエル・パストリッチ慶熙大学教授とキム・ナオク ベンジャミン人間性英才学校校長がメンターとして参加し、2月のワークショップに参加した青年たちの地球市民実践事例発表とメンタリングが行われました。参加者は、この会議で「青年、脳、地球」をスローガンに、日中韓地球市民青年クラブを結成しました。そして、人権、平和、気候変動など、地球規模の問題を解決するために、日中韓の青年が自分の夢と価値を見つけ、人生に変化をもたらせる地球市民教育プロジェクトを展開することになりました。その後彼らは、第66回国連NGOカンファレンス参加、脳教育にもとづく世界市民教育ワークショップ参加、日中韓地球市民青年ワークショップ開催など、活発な地球市民青年活動を続けています。

日程 2016.4.26

場所 ホワイトホールオフィス

参加 (韓国) 日中韓地域経営ワークショップ参加者、
ベンジャミンギャップイヤー、韓国地球市民青年連合
(日本) 日本ベンジャミンギャップイヤー、YECO JAPAN

後援 地球市民運動連合ホワイトホール

参加者体験談

「地球に申し訳ないと思うようになったのが変化だ。使い捨て用品を使わなくなり、車の運転も減らした」パクソンミン(韓国)

「日中韓のメンバーとまた一緒に過ごしている間、胸の奥深くで幸せと温もりを感じた。私たちは一つの魂で強くつながっていると分かった。地球市民運動を続けていくつもりだ。もっと多くの人が参加できるよう働きかけていく」ジュへ(中国)

「職場の同僚と一緒に『残飯を出さない』を実践した。皆、意識はしても実践しない理由は、今、自分にとって重要ではないからだと思う。だから教育が重要だ。上半期に地球市民講師教育を

受けようと思う」パクジへ(韓国)

「モニター画面を通してだったが、久しぶりに皆と会えて、うれしかった。そしてキャンプの後、皆の活動を知って私ももっとがんばらないと、と誓った。パストリッチ教授の話と励ましがとても力になった。また、皆に会いたい。地球市民ファイト！」田中萩(日本)

「2月に参加したワークショップの同期に会えてうれしかった。皆の活動の話を聞いて、とても刺激された。また、日中韓の青年が、地球のためにプロジェクトを続けていくことがとても大事だと思うので、これからも新しいアイデアを考えていきたい」石井睦美(日本)

#4

日中韓 地球市民青年 ワークショップ



地球意識にアップグレード！

日中韓の地球市民青年クラブは、最初のプロジェクトとして国連の持続可能な開発教育拠点都市の統営市セジャトラの森で「地球意識にアップグレードせよ!」というテーマで「日中韓地球市民青年ワークショップ」を行いました。国際脳教育協会は、「青年世界市民プロジェクト」事業に選定して支援しました。

日中韓の文化の中に込められた平和コードについてのディスカッション、美しい統営市の自然を背景に星瞑想、「私の体の健康、私の体の平和」を体験するためのヘソヒーリングなど、自主的に様々なプログラムを行いました。

このワークショップに韓国からベンジャミンギャップイヤーの青年が大勢参加し、後にベンジャミンギャップイヤーと国際脳教育協会共催の「ベンジャミンギャップイヤー世界市民青年講師ワークショップ」を行うきっかけになりました。(注:ベンジャミンギャップイヤーは、20代の青年のために開設された人生設計プロジェクト)

同年代が進行する教育に参加するという経験が青年たちに「私にもやれるんじゃないかな」という自信を芽生えさせました。企画と進行を担当したチームにとっても社会と人類に貢献できる自分に価値と自信を見いだす機会となりました。

参加 29名

主催 日中韓地球市民青年クラブ

後援 国際脳教育協会

場所 統営RCEセジャトラの森
(統営市、国連 持続可能な開発教育拠点都市)

期間 2016.6.24～25 (1泊2日)



参加者体験談

「平和を抱く独自文化が多く存在していることに驚き、満たされた。国も、年齢も、言語もすべて違うけれど、地球市民の名の下に、お互い心を開いて、楽しい時間を過ごせた」

「青年主催のワークショップに参加し、青年の能力と可能性を感じた。日中韓の地球に関心のある青年がもっと増えたら地球の平和経営ができるという確信がもてた」

「星瞑想をしたが、草の香り、虫の音、など、いろんな音や香りを感じながら『地球と私がつながっている』と感じた」

「プログラムの中で、お互いのエネルギーを感じながら、私たちは一つだと感じ、寝そべて自然を感じたときは、私自身が自然と一つだと気づいた。すべてが一つにつながっていると感じた」

#5

日韓青少年
国際交流
ネットワーク



韓国で21世紀型の未来教育モデル校と注目されているベンジャミン人間性英才学校の日本校開校を控え、日韓青少年の交流の必要性が高まりました。国際脳教育協会は、2015年12月、平和の島、済州島で日韓青少年交流のための「日韓青少年グローバル人間性英才キャンプ」と「日韓青少年未来教育フォーラム」を開催しました。このイベントは、その後、日韓のベンジャミン人間性英才学校と生徒同士の活発な交流活動の触媒になりました。

「遊びながら、交流しながら
想像する私たちの未来」

日韓青少年グローバル人間性英才キャンプ

日韓青少年グローバル人間性英才キャンプは、言語や国を超えて地球市民としての所属感を体験し、グローバル人間性英才としての自信を育てることを目標としました。チームにわかれてゲームや体力づくり、日韓のダンスを学ぶ、済州オルレ10コースでのポストゲーム、自然瞑想、文化交流、メンター特別講義、未来教育についてのディスカッションなど、さまざまなプログラムで進められました。また、ユネスコの世界自然遺産である済州島を背景にプロモーションビデオをつくったり、伝統衣装である和服や韓服を着たり、済州島民とフリーハグをしたりして、情緒的な結束を生み出しました。

「すべての人が幸せな未来学校をイメージする」というテーマで行われたソーシャルフィクション方式のディスカッションによって、未来教育に対する青少年の共通の願いについて相互理解が深まりました。ディスカッションの結果は、キャンプ期間中に開催された「日韓青少年未来教育フォーラム」で発表しました。

期間 2015.12 26～30（4泊5日）
主催 IBREA、ECO JAPAN、ベンジャミン人間性英才学校
主管 地球市民運動連合、済州脳教育協会
参加 ベンジャミン人間性英才学校 韓国、日本の生徒36名

プログラム

日程	内容
12.26	遊びながら親しくなる 済州島ツアー及びレクリエーション 自己省察の時間：キャンプで得たいこと
12.27	内面の自信を見いだす ユネスコ世界自然遺産 漢拏山に登る 共に生きていく世界 日韓の生徒がペアになってチャレンジ課題を実行 文化交流のタベ：伝統的な文化や食事を共有
12.28	言語や文化を超えた平和の体験 呼吸、瞑想、ヒーリングなど、脳教育活動 私はどんな人間なのか メンター特別講義及びメンターによるマンツーマンコンサルティング 日韓青少年、すべての生徒が幸せな未来の学校をイメージする グループプロジェクト：青少年から見た現在の教育の問題と解決法ディスカッション及び発表
12.29	日韓青少年未来教育フォーラム 「私たちがイメージする幸せな学校」参加 ベンジャミン人間性英才学校キム・ナオク校長の特別講演 脳のオペレーティングシステムBOSを実践する地球経営リーダー
12.30	仕上げ



「私たちがイメージする 幸せな学校」

日韓青少年未来教育フォーラム

人類の文明が競争と成功の価値観から共存と平和の価値観に転換するために教育が進むべき方向性を青少年と一緒に悩み、青少年の声として未来教育の方向性を提示する場として「日韓青少年未来教育フォーラム」を開催しました。

フォーラムに先立って行われた「日韓グローバル人間性英才キャンプ～遊びながら交流しながらイメージする私たちの未来」では、「校舎、テスト、成績表、義務で学ぶ教科授業がないとしたら?」という突飛な質問を想像の出発点として提供し、青少年の視点で、創造的で若々しい想像をイメージ化しました。生徒からは「価値と夢が見つかる学校」、「さまざまな挑戦と現場体験によって成長できる学校」、「自分のやりたいことが学べる学校」など、多彩な意見が飛び出しました。

フォーラムの最後に、日韓の参加者は、「地球経営宣言文」の宣誓によって、地球村時代の新たな人材像の役割と価値を誓い、注目を浴びました。「地球経営宣言文」は、2015年11月にソウルで開催された「大韓民国未来教育フォーラム」で、人間の価値と地球の価値を知り実践するグローバルリーダー宣言文として提示されたものです。

日程 2015.12.29

場所 済州観光協会ウェルカムホール

主催 国際脳教育協会、青少年メンタルヘルス人間性教育協会

主管 済州脳教育協会、地球市民運動連合

後援 済州国学院、済州観光協会、
無病長寿テーマパーク、CHANGE TV



プログラム

日韓グローバル人間性英才キャンプ参加チームの公演

講演「平和の島 済州島とグローバルリーダーの精神」パク・ヒョジョン済州国学院院長

講演「済州島の文化、無限の発見」キム・スヨル済州文化芸術委員会委員長

講演「グローバル人間性英才の条件」キム・ナオク ベンジャミン人間性英才学校校長

テーマ発表「日本の大学生から見た日本の教育の現状と未来」吉村卓真

学生フォーラム「私たちがイメージする幸せな学校」日韓青少年発表（5チーム）

参加者体験談

「最初は『会話やコミュニケーションがうまくできるだろうか?』と心配したが、言語や外見はコミュニケーションにおいて何の問題にもならないと感じた。私たちは皆大切に、地球のために働く地球のリーダーになった。これから一緒に夢見て、幸せな地球をつくる!」**ジョンジユン（韓国）**

「日本参加者と一緒に過ごししながら、同じ地球に住む、同じ人間だと感じた。人々に希望を伝える人が必要だと思った。フォーラムで発表するとき、自分自身を信じてリラックスして発表できたと思う。何でも肯定的に選択できる力が育ったと思う」**ジョハンイン（韓国）**

「グローバルキャンプ前は、日本人と馴染めないんじゃないかと思っていたが、今回のキャンプですべてが私の幻想だったことが分かった。また、他の文化について理解でき、少し大きくなった。青少年未来教育フォーラムでは、私は最近、教育に関心があるが、私の思い描く教育について仲間とたくさん話しながら、私のビジョンに近づけてよかった。これからもっとがんばる」**イソンヒ（韓国）**

「今回のキャンプでは、仲間を信じ、お互いの心が通じるという大切さを学んだ。韓国と日本は、言葉は違うけど、同じ地球市民なので理解しあえた。それはとても新鮮で、刺激的な体験だった。今後もこのような機会があれば積極的に参加し、地球市民としての意識をさらに高め、将来的には国家間の壁をなくして交流できるようにしたい」**吉村相生（日本）**

「私は自己宣言がとても嫌いで、自己宣言をするというときは本当に逃げ出したかった。でも、いつまでも逃げてはいられないし、今回は人前でするのはなく、海に叫ぶのだったから、勇気を出して自己宣言をした。すると意外にスッキリして体が軽くなった感じがした。挑戦しなければ何もできないということを実感した」**西巻穂香（日本）**

「今回のキャンプは本当によかった。初めて韓国人と会って、私自身も変化した。韓国人は親切で、たくさん話しかけてくれて、明るくなった。これまでの韓国人のイメージが変わって、とても好きになった」**竹内志織（日本）**

脳教育グローバルネットワーク 第1回地球市民ピースフェスティバル 1st Annual Earth Citizen Peace Festival



2016年は、物質的な豊かさと精神的な価値のへだたりの拡大、人工知能時代の到来により、人間の価値を本格的に問い始めた年です。これに国際脳教育協会は、100%ピュアを国家ブランドとするニュージーランドで、人間の脳の価値と機能を表現する「自然知能」の探求と回復を通して、持続可能な人類の未来を模索する国際フェスティバルを開催しました。ECO USAと共同で主催されたこのフェスティバルは、地球市民の平和の文化体験、世界10カ国の地球市民の結集、脳活用による健康・幸せ・平和の自給自足を模索する学術シンポジウムなど多彩な行事を行いました。



期間 2017.1.27～28
テーマ 脳、地球市民、そして私たちの
グローバル未来 Brain、Earth Citizen、
and Our Global Future
場所 ニュージーランド ケリケリ ターナーセンター
Turner Centre、Kerikeri、New Zealand
参加 10カ国の国際脳教育協会 協力パートナー
及び後援者1,000名



前夜祭

1月27日に行われた前夜祭は、第1部「天」、第2部「地」、第3部「人」をテーマに、平和を愛する地球市民の文化祭を繰り広げました。自然と人間の共存を描いた、ニュージーランドの伝統マオリショー、テコンドー、B-boy、よさこいなど、世界各国の多彩な文化公演が披露されました。人間の脳が本質的に追求している平和性を回復したときに創造できる、地球を中心とした平和文化を体験する機会の提供が目的でした。開幕祭の参加者は、マオリの伝統民謡であり、このイベントのテーマソングでもある「ポカレカレ・アナ」を歌いながら、地球の平和とすべての地球市民の結集を願いました。

開幕祭

1月28日の開幕祭にはターニャ・マクイネス ノースランド副市長、サリー・マコーリー市会議員、ポール・デイビス ノースランド観光振興社ゼネラルマネージャー、ケリケリの小学校校長など、地域の関係者が出席しました。また、米国メリーランド州ラリー・ホーガン知事、リンダ・ロペス ニューメキシコ州上院議員、リンダ・M・トゥルヒロ下院議員、サンタフェ市長、ニュージャージー州知事、カナダのキャサリン・マッケナ環境気候変動大臣、韓国のイ・スソン元首相とイ・サンス元労働大臣など、72名の議員と12名の知事・市長など、165名が祝電を送り、地球市民ピースフェスティバルを祝いました。

ターニャ・マクイネス副市長は「平和に満ちた前夜祭をはじめ、このような国際的な行事に出席できたことに感謝します。これまでの生き方では、地球がこれ以上耐えられない」とし、「持続可能な地球の繁栄、人間と母なる地球の持続可能な健康と幸せは、ニュージーランドの優先事項なので、地球市民運動の理念と同じだ。みんなの健康と幸せのために、持続可能な社会をつくるということなのに、これをどうして無視できますか?」と地球市民運動への支持を表明しました。

李承憲国際脳教育協会会長は「ケリケリは全身で平和を感じられる場所」とし、「地球市民運動は自分の価値を見いだす運動」と明らかにしました。李承憲会長は「毎年、ノーベル平和賞が授与されるが、世界は平和ではない」とし、「自分の脳を活用する脳教育で、また脳とつながっているへそで、自分自身の価値を見だし、健康、幸せ、平和を自給自足できるようになってほしい」と祝辞を述べました。

シンポジウム：脳、地球市民、そして私たちのグローバル未来
Symposium: The Brain, Earth Citizenship, and Our Global Future



第1回地球市民ピースフェスティバル2日目は、医学、教育学、心理学、工学、そして最新の脳科学にいたるまで、様々な分野の有識者が一堂に会し、脳教育国際シンポジウムが開催されました。このシンポジウムをきっかけに、人類共通の価値に貢献しようとする学者同士のネットワーク「地球経営学会」が発足しました。今後、地球経営学会を通じて、平和で持続可能な社会のための多様な研究や学術交流、脳教育の研究と国際協力プロジェクトなどが行われる予定です。

プログラム

発表者	発表テーマ
李承憲 国際脳教育協会会長	脳と地球市民の価値 脳の価値、人類の価値、自然の価値を取り戻そう The brain and the value of the Earth Citizen - Finding my value, the value of humankind, and the value of nature
デイブ・ビル アメリカブレインパワーウェルネス協会理事	未来のリーダーを育てる脳教育 Brain Power Classroom for empowering future leaders
キム・ナオク ベンジャミン人間性英才学校校長	ベンジャミン人間性英才学校の成功ストーリー Success stories from the Benjamin School for Character Education
エメロン・マイヤー UCLAオープンハイマーセンター専務理事	腸脳相関が心に与える影響 How the mind-gut connection impacts our choices
ヨン・ジュホン 韓国脳科学研究院副院長	カクレミノ化合物のガン転移予防と腸の健康 How natural compounds prevent cancer metastasis and improve our gut health
リード・タクソン 米国保健政策専門家、米国代替医学・ 統合医学研究所諮問委員	脳教育による公衆保健増進 How Brain Education can improve public health
リリー・ジョージ ニュージーランドメッシュ大学主席研究員	脳教育による世代間に継承されたトラウマのヒーリング Healing Intergenerational Trauma through Brain Education



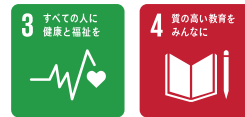
地球市民宣言文

フェスティバル開幕祭では、共同主催機関であるECOの提案により、地球市民宣言文が朗読されました。脳教育で自分の価値を見だし、健康、幸せ、平和の自給自足を追求する地球市民運動の精神を盛り込んだ宣言であり、韓国、アメリカ、イギリス、日本、カナダ、中国、ニュージーランド、ベルギー、ポーランドから出席した地球市民の代表が読み上げました。

- ・ 私は、私の価値を見だして人間性を回復した、すべての人間と生命を慈しみ愛する地球市民です。
- ・ 私は、健康で幸せな家族と、平和な共同体の実現に寄与する地球市民です。
- ・ 私は、国家、人種、宗教を超え、全人類が一つの家族のように生きる地球村のために生きていく地球市民です。
- ・ 私は、地球の本来の美しさと生命力回復のため、地球の生態系の保全と修復に向けて実践する地球市民です。
- ・ 私は、人類意識の進化と新たな地球文明時代到来のため、1億人の地球市民を養成する活動に参加する地球市民です。



脳教育グローバルネットワーク 脳教育ブレインオリンピックIHSPPO



IHSPPO（国際ブレインHSPオリンピック、International Brain HSP Olympiad）は、2005年4月、人間の脳の価値と重要性を伝えるため、国際脳教育協会の科学技術分野諮問機関である韓国脳科学研究院（KIBS）によって創設されました。ユネスコ（UNESCO）が主催する、数学、物理、生物、化学、情報、天文など、1つの分野の知識評価に焦点を置く既存の国際オリンピックとは異なり、IHSPPOは、人間の脳の活用と開発に重点を置いたブレインオリンピックとして毎年開催しています。3カ国3万5,000名が参加した第1回大会を経て、第2回ではオスカル・アリアス コスタリカ大統領が共同大会長になりました。

2008年以来、国際脳教育協会は創設機関である韓国脳科学研究院とともに、IHSPPO国際大会を共同開催し、IHSPPOの地方予選と本大会開催期間中に脳教育セミナーや専門シンポジウム、青少年体験キャンプなど、様々なコンテンツや関連行事を後援し、脳教育分野の多くの利害関係者が参加して脳活用の重要性和価値を体感しました。

IHSPPOスローガン

「脳への新たな挑戦」

New Challenge for the Brain

IHSPPOエンブレム



IHSPPO 趣旨

人類がもつ最高の資産であり、人類に残された最後の希望は、「脳」です。今日の人類文明をつくり上げたのが脳の無限の創造性であるように、人類が直面している問題を解決するカギも脳にあります。人間の価値が脳にある情報の量と質で変わるとすれば、人類の未来も脳をどう活用し開発するかにかかっていると言えます。

体と心と意識の成長段階である学生にとって「脳」はさらに重要です。脳を難しく近寄りたたい対象ではなく身近で大切な存在と認識し、自分の脳の可能性を信じ始めると、子供たちの未来は変わってくるでしょう。これが「国際ブレインHSPオリンピック」を開催する最大の理由です。

特定の分野の知識を評価するのではなく、統合的な脳活用と脳開発に焦点を当てたオリンピックによって、脳開発の無限の可能性と重要性を伝え、これをもとに、未来社会が必要とする人材の新たなパラダイムを提示するものです。

国際ブレインHSPオリンピックは、今日の人類文明を創造した脳の無限の可能性の自覚に加え、全人類が願う健康、幸せ、平和な未来を開くカギが、私たちの脳の中にあると気づく舞台になることを願っています。（引用：国際ブレインHSPオリンピックウェブサイト www.ihspo.org）

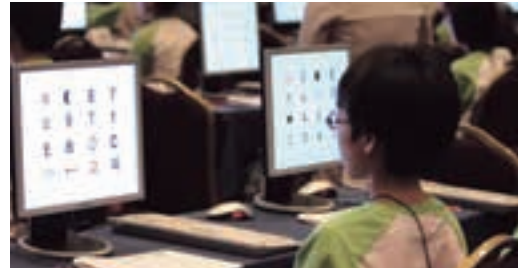
評価種目



ブレインウィンドウ Brain Window

高度に集中して脳機能を発揮すると現れるHSP（Heightened Sensory Perception：高等感覚認知）能力を評価する種目。人が最も依存している感覚である視覚を遮断した状態で、ターゲットの情報を認知する能力。

評価能力：高等感覚認知能力、メタ認知



スピードブレイン Speed Brain

異なる色の9～16種類の形を4秒間見た後、記憶を再現することによって、短期記憶と作業記憶を評価する種目。一般に、人間の脳は、視覚から入力された情報の一部のみを記憶することができる。しかし、「スピードブレイン」は、写真を撮るように情報を入力する人間の脳の能力にもとづき、短期記憶、作業記憶、瞬間認知能力を向上させられる。

評価能力：短期記憶、作業記憶、瞬間認知能力



HSP Gym

HSP Gymは、呼吸、姿勢、意識の3つを自分の意図通りにコントロールする種目。体力はもちろん、バランス感覚、集中力、持久力を増進する優れた効果がある。体のすべての部位は、脳とつながっているので、体の鍛錬によって脳機能も向上させられる。加えて、自分の限界を超えることで大きな自信が持てるようになる。

評価能力：バランス感覚、左脳と右脳のバランス、感情コントロール力



HSP12段

人間の脳の中で最も基本的な中枢機能である「動き（motion）」に焦点をあてた身体調節能力を評価する種目。筋持久力、バランス感覚、左脳と右脳のバランスなどをチェックする。HSP12段は、1段から12段まで段階的に構成されており、本種目出場資格は12段が可能者に限る。

評価能力：身体調節能力（筋持久力、バランス感覚、左脳と右脳のバランス等）

大会参加者の感想

「私はもともとすごく臆病で、消極的だったけど、HSP12段の練習をすることで新しい友達ができ、より広い世界に出会い、トレーニングをするのでどんどん気力にあふれて、コミュニケーションできるようになった。私はオリンピアードに2回挑戦した。最初は逆立ちで立つこと自体が本当に怖かったけど、その恐怖を克服し、2～3歩歩いては転ぶのを繰り返すうちに限界を超え、現在150歩以上歩けるようになった。体力と自信が向上し、挑戦してあきらめなくなった」**キム、ベンジャミン学校3期生、HSP12段出場**

「HSP12段の練習をするうちに、『選択すれば成し遂げられる』ことが分かった。前は始めてもいないのに心配して選択しなかった。それで私に与えられた機会をたくさん逃した。でも今は、とりあえず『やってみよう!』と思うようになり、私に与えられた機会をためらわずにキャッチできるようになった。自分のことが信じられるようになり、いつでも私が選択すれば成し遂げられることが分かった。これは私がどんな状況でも、自分に勇気を与えられるきっかけになった」**ユン、小5、HSP12段出場**

「今日の『カードを見る』は、本当に印象的だった。今回のように切実にカードを見たのは初めてだった。カードがよく見えないから、『他の人はパスしているのに、なぜ私だけできない?』と思った。被害者意識がたくさん出た。それで自分自身に『本当に切実に見たいと思ったら考えを捨てなきゃ。すべての考えを捨てよう』と思ってやってみると、やっと見えた。今日、いろんなことを思った。まず、私はこんなに切実にカードを見たことがなかった。また、今日みたいに私の脳を心から信じたことはなかった。カードを見るのはかなり集中力を必要とする。だから、カードを見ることで集中力がアップしたみたいだ」**キム、小6、ブレインウィンドウ出場**

「今日はスクリーンが本当によく見えて驚き、本当に久しぶりにこんなにきれいに見えて気持ちよかった。カードを見れば見るほど、感情コントロール能力が養われて、腹が立ったときに、なぜ腹が立つのか考えるようになって感情をコントロールできる。メタ認知能力が高まって、私の体のどこがおかしいのか、自分が何に集中しているのかが分かる」**チェ、高1、ブレインウィンドウ出場**

「最初に12段をパスした時、とてもうれしくて、これまで何度も転んだのを思い出して泣きそうだった。自分の限界を超えてもっと成長することを望んでいたのに、恐怖に打ち勝って何でも一生懸命やろうとした自分に感動して、他の人にも愛する心で接し、一瞬一瞬を大切に思うようになった」**パク、中3、HSP12段出場**

「ブレインウィンドウの練習でカードを見るときに、友達はどんどんパスして行って、感想を発表する声が気になって自分に集中できなかった。すると緊張してずっと雑念が出てきた。何も考えずに呼吸に集中するのが一番いいと思って、HSP4段と12段をしながら大きく呼吸を吐き出した後、すぐにカードを見たら、本当に何の雑念もなく呼吸しながら自分に集中でき、スクリーンも安定してよく見えた。ブレインウィンドウは、雑念と心配を一気に手放して、自分が最も正確に見えて、チェンジできるということが分かった」

パク、高1、ブレインウィンドウ出場

国際ブレインHSPオリンピック本選参加規模

2005.4.5	第1回(韓国大会)	                                                                 
----------	-----------	--

IHSPO2016 第11回 国際ブレインHSP オリンピック

「第11回国際ブレインHSPオリンピック」は、韓国、アメリカ、中国、日本の4カ国約300名の青少年が参加し、アメリカ・ニューヨークにあるオナーズヘブンで開催されました。大賞はイ・サンミン（金海栗下高校）、金賞はブレインウィンドウ部門のパク・サンヒョン（忠南カオン中学）、HSP Gymのイ・ジウォン（釜山イサベル中学）、HSP12段のパク・ヒョングク（ベンジャミン人間性英才学校）が受賞しました。

日程 2016.8.2
場所 アメリカ・ニューヨーク オナーズヘブン
本選出場 日米中韓4カ国300名



第11回大会は、国連の持続可能な開発目標実施元年の関連行事として、ECO USA (Earth Citizens Organization) との共同主催で「地球市民青少年リーダーシップキャンプ」を同時開催しました。また、ニューヨーク国連本部で開催された「Youth Mental Wellbeing Conference」にアメリカのIBREA Foundationが参加し、第10回IHSPO大賞受賞者のキム・ノフン君が韓国青少年代表として発表しました。



地球市民青少年 リーダーシップキャンプ

第11回IHSPOニューヨーク国際大会の関連行事として地球市民青少年リーダーシップキャンプが開催されました。オリンピックを通して自分の脳がもつ無限の可能性と潜在能力を伸ばした青少年たちが、「地球」をテーマに様々な体験をしながら、地球市民としてのリーダーシップを発見していく時間になりました。このキャンプは、ニューヨーク市のマンハッタンの公立学校 (Lab School for Collaborative Studies) で脳教育にもとづく地球市民教育を教えるMane Andreeasyan教師、そしてアメリカの公立学校で脳教育を普及しているブレインパワーウェルネス (Brain Power Wellness) の講師によって行われました。



日程 2016.8.4
場所 アメリカ・ニューヨーク オナーズヘブン (Honor's Haven)
参加者 第11回国際ブレインHSPオリンピック
ニューヨーク国際大会青少年200名
進行 ECO USA、Brain Power Wellnessの講師

プログラム

第1部	脳のもつ潜在能力を目覚めさせる 楽しいブレイン体操と遊び体験
第2部	地球を健康に、私は地球市民！ 私の中に太陽のような条件のない愛を見つける 地球を健康に、アクションプランを組む
第3部	地球市民プロジェクト紹介



青年メンタルヘルス ウェルビーイング カンファレンス参加

IHSPO参加者は、決勝翌日の8月3日にニューヨーク国連本部で開催された「Youth Mental Wellbeing Conference」に参加しました。国連経済社会理事会協議資格のIBREA Foundation主催のこのカンファレンスは、持続可能な開発目標を達成するための青年のメンタルヘルスの重要性を伝え、具体的な行動計画を話し合うために設けられました。



このカンファレンスに発表者として招待された第10回国際ブレインHSPオリンピック大賞受賞者キム・ノフン君は、青少年のオンラインの集まりである「青少年が変える地球」の活動を紹介しました。キム・ノフン君は「国連は2030年を基点に、持続可能な開発目標を提示しています。この目標を達成する力は、何でしょうか？ 私は、体の健康、肯定を選択する力、そして創造性を挙げたいと思います。そのために、私は今この場で地球を持ち上げて10メートル歩きます！」と言い、IHSPOの公式種目であるHSP 12段でカンファレンス会場を歩き、参加者から喝采を浴びました。

※「青少年が変える地球」は、競争意識の強い教育システムを青少年が自ら変えようという趣旨で結成され、「私たちに夢見る自由を！」をキャッチフレーズに、韓国で約150名が「青少年の自由さがし」キャンペーンに参加しています。また、青少年に本当に必要な教育、青少年が変えられる様々な社会活動に積極的に参加しています。

(出典：青少年が変える地球 www.facebook.com/youthchangeE)



国際ブレインHSP オリンピック大賞 参加機関 代表インタビュー

韓国やニューヨークなどで開催されたオリンピック大賞国際大会を通して、生徒と保護者の間で脳教育が未来社会の教育パラダイムを提示するグローバル教育であるという認識が広がっています。参加した子供たちは、自分の限界を乗り越え、脳の真の価値を見いだしました。国際HSPオリンピック大賞によって、脳の英才に対する保護者の認識が変化してきています。

イ・ヒョンジョン、韓国BR脳教育CEO



よい人材の尺度が「知識」だった時代は終わりました。超高齢化時代に入り、若い人材の価値がこれまで以上に大切になりました。青少年の脳の無限の可能性をどのように引き出すかに国の運命がかかっています。このような時代に、国際ブレインHSPオリンピック大賞は、脳教育のモチベーションと地球市民マインドの確立に大いに役立っています。これまでの国際大会参加の経験をもとに、今後も日本代表を選抜し、参加させていきたいと思っています。

品川玲子、日本ベンジャミン人間性英才学校校長



中国は、つい最近まで行われていた一人っ子政策と経済成長による所得の向上によって、子供の教育に高い関心があります。特に脳開発への関心が高く、ブレインオリンピック大賞IHSPOに持続的な関心をもって参加してきました。また、第4次産業革命によるロボット教育ブームを受け、中国の労働人口の40%を、3Dプリンター、人工知能(AI)などの分野で競争力のある技術人材に育てようという国家計画があります。

しかし、人工知能時代の真の競争力は、与えられた技術を習得する能力ではなく、人間だけがもつ独自の創造性から出てくるものです。HSPトレーニングを通して青少年が脳の潜在能力と脳開発の重要性を理解できるように、今後も本大会に参加する計画です。

ジュリー・ミョ、中国U-DAP Solution CEO



脳教育融合コンサルティング 脳教育と世界市民教育の学際研究



2015年5月、ユネスコ主催の世界教育フォーラムの主な議題は、「世界市民教育 (Global Citizenship Education)」であり、2016年に韓国・慶州で開催された第66回国連NGO会議の主なテーマも「世界市民教育：持続可能な開発目標 (Education for Global Citizenship: SDGs)」でした。

国際脳教育協会は、教育を通じて、共に生きる価値と態度を涵養し、地球の問題に対する個人の責任意識と共同体の実践を強調するという点で、脳教育と世界市民教育が追求する方向性に違いはないと考えます。これを具体化するために、2015年上半年に脳教育関連の学術機関と教育現場の教師・講師のための「地球市民教育研究会」を発足し、世界市民教育と脳教育のシナジーを追求してきました。

その結果、中学校自由学期制のプログラムを開発し、教師・講師の研修や青年対象教育ワークショップを進め、2016年には342名の講師を輩出し、韓国内62校約6,500人の生徒が脳教育にもとづく世界市民教育を受けました。

脳教育精神を集約した「脳宣言文」は、人間の脳は本質的に人間と地球を愛し、平和を求めていることを明らかにしています。脳教育はこのような人間の脳の本質的指向性を「地球市民精神」として提示し、地球市民精神を回復できる体験的教育方法論を実践していくことによって、世界市民教育とのシナジーを生み出していく所存です。

脳教育にもとづく世界市民教育プログラム開発プロセス



2015.3.19

脳教育スペシャリストフォーラム 持続可能な未来のための脳教育の役割とビジョンについてのベシャリストのディスカッションを通じて、脳教育と世界市民教育連携の必要性のシナジー効果についてのコンセンサスを得る

2015.7.11

地球市民教育研究会発足



2016.1.5

脳教育にもとづく世界市民教育
中学校自由学期制用プログラム
「大切な地球、私たちは世界市民」
マニュアル制作完了

2015.9~12

教育現場でテストプログラム実施
及びプログラム修正

2015.7~9

中学校自由学期制用8セッション(16時間)
プログラム開発

地球市民教育研究会の構成

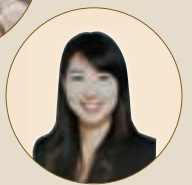
諮問委員

国際脳教育総合大学院大学 シン・ジェハン教授
ベンジャミン人間性英才学校 キム・ナオク校長
韓国脳教育院 キム・ダイン 首席チームリーダー
グローバルサイバー大学脳教育融合学部
ジャン・レヒョク教授



専門研究委員

京畿ホゴク中学 パク・ギョンハ教師
忠北亨碩中学 イ・ユンソン教師
京畿脳教育協会 ジョン・オクラン副協会長
京畿脳教育教科研究会 カン・ミョンオク会長
ソン・ジア プレイントレーナー



脳教育にもとづく世界市民教育のプログラム例～中学校自由学期制用（1学期）
「大切な地球、私たちは世界市民」

- (1) 脳の無限の可能性、中でも創造性と平和性の開発を目的とする「脳教育」と、
グローバル教育のパラダイムシフトとしての「世界市民教育」の融合
- (2) 「世界市民」として自分を認識し直し、自信を育てる「自己アイデンティティ教育」
- (3) 瞑想、省察日記を書く、発表など、自己省察活動を通して、
段階的に世界市民としての価値や態度を根づかせる
- (4) 様々な身体活動を適用し、肯定的な感情の状態で授業に積極的に取り組めるようにする

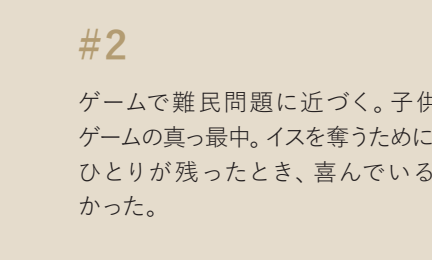
区分	セクション	テーマ	主な活動
私、 地球市民！	1	地球市民の挨拶 (平和の文化)	・世界の様々な挨拶の言葉とやり方 ・文化を超えた言語、地球市民トーク ・地球市民の挨拶をつくる
	2	地球市民としての私 (グローバル化)	・しりとり ・ハンバーガーコネクションによるグローバル化 ・私たちの実践が創造する ポジティブな変化と結果の輪
	3	私が感じる平和 (平和コミュニケーション)	・「平和を知っている」と「平和を感じる」の違い ・マッサージ、平和をコミュニケーションする方法 ・私の周りから平和を創造する
	4	みなのための幸せ (持続可能な開発)	・友達の進路コンサルタント ・私の価値観を理解する ・地球のポズトレーニングで中心価値を見つける
実践する 地球市民	5	生存の法則を変える (人権)	・イス取りゲーム ・競争で全員生き残る方法、新聞紙ゲーム ・イス取りゲームと難民問題の共通点は？
	6	多様性は力だ (文化の多様性)	・北方系と南方系の特徴 ・多様性の意味と価値 ・外国人労働者に対する偏見を省察する
	7	あらゆる生命が 共存する地球共同体 (環境)	・ゴミ捨てゲーム ・海洋汚染による動物の苦痛 ・生命の源である地球のために必要な変化は？
	8	私は地球経営者 (持続可能な開発)	・バーチャル地球経営会議

脳教育にもとづく世界市民教育の授業風景

「みんなが幸せなのがほんとの幸せ！」忠清北道 亨碩中学校2年2組（担任：イ・ユンソン）



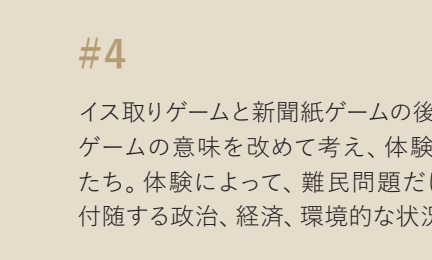
#1
地球市民の挨拶でスタート。脳教育にもとづく世界市民教育の授業で子供たちがつくった亨碩中学校2年2組の地球人挨拶「ジャンベルドスケテト〜」。意味は「相手を尊重する」。意味も素晴らしいし、表現もユニークだ。



#2
ゲームで難民問題に近づく。子供たちはイス取りゲームの真っ最中。イスを奪うために競い合う。最後のひとりが残ったとき、喜んでいる人はあまりいなかった。



#3
新聞紙を折りたたむゲーム。どんどん小さくなる新聞紙の上に全員が立つために、様々な方法を動員する生徒たち。一緒に考えて問題を解決しながら楽しんでいる。このゲームで、安全に暮らせるところがなく漂流する難民に、住む場所を共有する喜びを間接的に体験した。



#4
イス取りゲームと新聞紙ゲームの後に、瞑想によってゲームの意味を改めて考え、体験を整理する生徒たち。体験によって、難民問題だけでなく、これに付随する政治、経済、環境的な状況を体験した。



#5
地球問題ボックス。様々な活動の後、生徒たちはグループごとに、問題解決のための自由なアイデアを集める。このように集めた意見を「地球問題ボックス」に入れた。

脳教育にもとづく世界市民教育アドバンスワークショップ

国際脳教育協会は、韓国脳教育院、地球市民運動連合の共同主催で、教師と講師を対象に、2016年上半期に4回にわたってアドバンスワークショップを行いました。グローバル化、人権、環境、平和、持続可能な開発といったテーマに関するグローバルな問題への世界市民教育の視点を理解し、学習者の自主的かつ協力的な授業運営方法の習得に重点を置きました。

学習者の自主的で協力的な授業運営方式で効果的に世界市民教育を行うためには教師の役割の変化が必要です。そこで、教師の役割が「教える人」から学びと省察が起こるようサポートする「案内者」に変化するのを体験できるようにしました。

青少年対象に脳教育を教えている参加者は、身体活動や自己省察活動などを通じて自信の向上と意識の拡張を促す脳教育が、グローバルな問題と組み合わせることで、青少年が生活の中でリーダーシップを実践できる強いモチベーションになると評価しました。

ワークショップ参加規模

全4回 342名 (教師70名、講師272名)	2016. 1. 8	116名
	2016. 3. 20	46名
	2016. 3. 26	31名
	2016. 6. 6	149名



参加者の体験談

「地球市民として、地球の現実を見つめ、その問題解決のカギは人類にあると気づき、自分と関連づけることがいかに大事か気づいた」**キム・ジョンミ講師**

「地球をテーマとした教育問題へのアプローチが共感しやすい部分なので印象深く、既存の教育との差別化も感じた。8セクションの体験を通して自ら感じ、最後に瞑想で脳の中に決意を刻印するプロセスが特によかった」**イ・スギ教師**

「地球を中心に置き、地球を救う責任が私にあると心に響いた。既存のグローバル時代を強調する知識伝達ではなく、地球経営者としての責任を体験できてよかった」**カン・ミスク教師**

「普段、教師として必要性を感じているテーマだった。しかし、これまでの教育は哲学のないバラバラの情報だった。今日受けた教育は、哲学がしっかりとっていて一貫性があり、今必要な教育なのでとても嬉しい」**シン・ヘスク教師**

「脳教育が地球経営脳教育に拡大しており、これまで30年間やってきた活動を融合し、より大きく実を結べるようになったことが最も印象的だった。地球規模の問題に関心をもち、その解決に関与できるようサポートする多様な方法のアプローチがよかった」**ジョン・オ克蘭講師**

脳教育にもとづく世界市民教育フォーラム

2016年1月、脳教育にもとづく世界市民教育の中学校自由学期制カリキュラムを発表した国際脳教育協会は、様々な教育機関同士の交流の場を設けました。青少年教育と教師教育の事例を取り上げ、脳教育と世界市民教育の融合がもたらした成果を発表しました。国際児童脳教育研究所は、幼児に適用した世界市民意識涵養のための教育プログラムを紹介しました。最後に、青少年と保護者が共に「世界市民」の意味をディスカッションする「地球市民トーク」が行われました。

日程 2016.6.12
場所 ユネスコ韓国委員会大会議室
参加者 教師、講師など約40名
主催 国際脳教育協会、韓国脳教育院
主管 地球市民運動連合、青少年メンタルヘルス人間性教育協会

プログラム

順序	内容
経過報告	国際脳教育協会 地球市民教育研究会
Keynote Speech	キム・ナオク国際脳教育協会副会長
Opening Speech	脳教育にもとづく世界市民教育 キム・ジイン国際脳教育協会国際協力チームリーダー
セッションⅠ（青少年）	中学校世界市民教育実践事例及び自由学期制適用計画 イ・ユンソン世界市民教育指導教員
セッションⅡ（教師）	地球を抱く教師が未来リーダーを育てる ウォン・スラ世界市民教育中央指導教員
セッションⅢ（幼児）	地球よ、愛してる！ アン・ソヨン国際児童脳教育研究所研究員
地球市民 トークコンサート	地球を抱くアジア青年ネットワーク 日中韓地球市民青年クラブ 地球市民トーク 青少年、保護者



2016脳教育にもとづく世界市民教育決算及びラウンドテーブル

2016年1年間、脳教育にもとづく世界市民教育普及のために協力してきた5つの機関の共同主催で「2016脳教育にもとづく世界市民教育 決算及びラウンドテーブル」を開催しました。教師と講師、NGO活動家、青年活動家が2016年には、教科内授業やサークル活動など、様々な形で進行了た活動の成果を振り返り、2017年の発展の方向性について考える時間をもちました。

日程 2016.12.4
参加者 教師、講師、青年活動家など計34名
参加機関 地球市民運動連合、韓国脳教育院、青年メンタルヘルス人間性教育協会、ベンジャミン人間性英才学校

プログラム

発表者	発表内容
忠北師範大学付属中学校ウォン・スラ教師	自由学期制テーマ選択活動
ベンジャミンギャップイヤー キム・サンミ、イ・ギョンウン	中学校「世界市民地球リーダー」サークル
地球市民運動連合仁川支部ジョン・ヨン事務局長	中学校自由学期制サークル活動
恩平脳教育協会パク・スイン会長	高校サークル活動
釜山墻山小学校ジョン・インジ教師	「地球市民特攻隊」サークル活動
大田スクール共感研究会カン・ヒョンスク教師	小中高連携生徒実践中心の創意・人間性・世界市民教育プログラム資料開発及び研究

2017年の課題導出

- ・ 脳教育の要素を強化：変化と成長の内在的モチベーション
- ・ 地域連携体験活動の強化：生活の中の実践モチベーション
- ・ 変化と創造の原動力である青年世代の社会貢献活動の舞台を提供





事例発表者の感想

「生活の変化は意識の成長から始まる」
ウォン・スリ教師、ユネスコ世界市民教育中央
指導教員

どうすれば、世界市民教育がグローバルな問題に
ついての知識教育に終わらず、心深く感じ、行動
できるような教育になれるかが、彼女と仲間の
世界市民教育指導教員の悩みだった。彼女が世界
市民教育に脳教育を組み合わせた授業をするよう
になった理由だ。

「脳教育の原理は、体が目覚めると心が目覚め、
心が目覚めると行動につながるということだ。そし
て、その原理を実現する方法として、ゲームや身体
活動、呼吸瞑想など、子供の心と体を目覚めさせる
活動を授業に積極的に活用する」

彼女は、世界市民教育は最終的に自己省察によって
「地球の一構成員としてどう生きていくのか」に
ついての質問を投げかけて、そこに答えを見つけ
ていく過程だと述べた。そのため特に省察活動に
重点を置いたという。

「教育をする人々が最もやりがいを感じる
瞬間は、子供たちが自分の価値を発見し、
自分でつくっていかうという勇気を出すとき」
パク・スイン脳教育講師、恩平脳教育協会会長

「最初は子供たちがあまりにも無気力で授業がうまく
いかなかった。スマホばかり見ていた。3セッション
くらいまで耐えて、子供が心を開くまで待った。
私は、RIASEC(ホランド理論)、体力テスト、多重
知能検査など、子供たちが自分のことを知っていく
活動をコミュニケーションツールとして使用した。
私の話をするより『君はこんな人だ』『君は今、この
ような状態だ』と関心をもって話をすると、
自分の話だから集中して聞き、心を開いていく」

2016年、小学校、中学校、高校で世界市民教育の
授業をしたが、他の授業よりエネルギーを多く使った
という。しかし、来年も継続する予定だ。教育者が最も
やりがいを感じる瞬間は、子供たちがどんな環境の中
でも自分の価値を見だし、自分でつくっていかうとい
う勇気を出すときだ。「脳教育にもとづく世界市民教育」
をしながら、そのような可能性をたくさん見てきた。

脳教育にもとづく世界市民教育 2016年成果及び主な事例

1学期カリキュラム運営(6セッション以上)

28校 | 1,157名

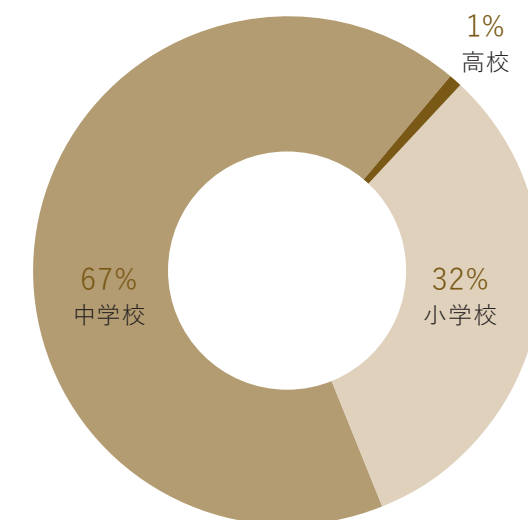
28  1,157 

特別講義提供(2～3時間)

34校 | 5,324名

34  5,324 

学級別分布



脳教育にもとづく世界市民教育の効果

脳教育の原理と方法を適用した脳教育にもとづく世界市民教育が一般的な世界市民意識の向上にどう役立つかを調べるために、教育履修者を対象に教育前後の世界市民意識の変化を分析しました。

教育履修者236名を対象に世界市民意識の事前・事後調査を比較分析した結果、統計的に有意差がありました (p<.01)。下表の通り、5点満点のうち、事前調査は3.63点だったのに対し、事後調査では3.92点に向上したことが分かります。世界市民教育の下位要素の事前・事後調査を比較分析した結果、人間の普遍的価値 (p<.01)、多様性の価値尊重 (p<.05)、国際問題への興味・関心 (p<.05)、国際問題解決への参加意識 (p<.05)、世界志向的な態度 (p<.05) などにも統計的に有意差がありました。

*p<.05, **p<.01

測定要素		回答者数	平均	標準偏差	T値
世界市民意識 (全体)	教育前	236	3.63	.48	2.517**
	教育後	236	3.92	.56	
人間の 普遍的価値	教育前	236	3.60	.61	2.883**
	教育後	236	4.03	.70	
多様性の 価値尊重	教育前	236	3.32	.46	2.335*
	教育後	236	3.51	.54	
国際問題への 興味・関心	教育前	236	3.39	.50	2.194*
	教育後	236	3.49	.56	
国際問題解決 への参加意識	教育前	236	3.77	.67	2.236*
	教育後	236	3.90	.72	
世界志向的な 態度	教育前	236	3.64	.57	2.278*
	教育後	236	3.79	.64	

※世界市民意識評価ツール：国際脳教育協会は、関連文献を調査し、ジャン・ジュヒェが「小学生の世界市民意識に関する研究」(2008、修士論文、京仁教育大学教育大学院) に使用したアンケートを使用しました。このアンケートは、「国際理解教育の実態と国際比較研究」(1995、キム・シニルほか、ユネスコ韓国委員会) の「国際問題及び外国に対する態度アンケート」を再構成したものです。

中学校自由学期制事例1

学校 忠清北道清州市忠北師範大学付属中学校
参加生徒 1年生30名
担当教師 ワン・スラ教師
教育期間 8月22日～12月3日
教育時間／運用サイクル 3時間／週1回



授業運営のキーポイント

1. 「世界市民」についてのワールドカフェスタイル ディスカッション



世界市民というのは聞き慣れない言葉なので、最初の時間は、ワールドカフェスタイルで自由に自分の考える「世界市民」について話しあうようにした。水平対話によって生徒たちは世界市民のことを、配慮、克服、調和、尊敬、理解、関心などと整理し、このような人になりたいというモチベーションになった。

2. 身体活動と省察中心の授業



体が目覚めると心が目覚め、心が目覚めると行動につながるという脳教育の原理を適用し、ゲーム、身体活動、呼吸瞑想など、子供の心と体を目覚めさせる活動を積極的に活用する。「地球の一構成員として、どのように生きていくのか」に対する答えを生徒が自ら内面に見いだせるようサポートするために瞑想だけでなく、仲間との会話、発表、作文など、省察の機会を多く提供する。

3. 日々の生活との関連性



自分の生活との関連性を自分で見つけて変化を作り出せるように、日常で実践可能な体験活動の機会を提供する。大豆ミート料理実習、地域の河川愛護キャンペーン、無添加石けんづくりなどの活動を実施。

中学校自由学期制事例2

学校 京畿道高陽市ホゴク中学校 教育機関 地球市民運動連合京畿北部支部
 参加生徒 1年生52人 教育時間／運用サイクル 2時間／週1回
 担当教師 パク・キョンハ教師
 教育期間 8月22日～12月5日



セッションごとの生徒の感想

セッション1 私は地球市民

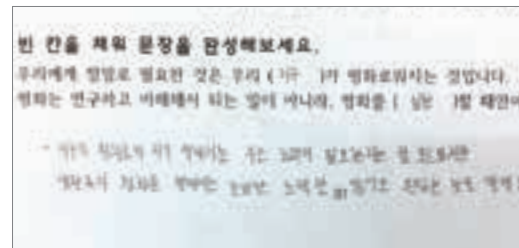
- ・外国のいろんな挨拶とその意味を知ることができてよかった。
- ・自分で地球市民挨拶をつくって、言語の枠を破る経験をしたことが印象深かった。

セッション2 地球市民の選択

- ・これからは地球のために、地球を傷つせず、食べ物も食べられる分だけ食べて残さず、必要なものだけ買い、些細なことでも無駄にしないように実践して努力する。
- ・地球が滅亡するという絶望ではなく、私ひとりの小さな実践で地球が回復できるということが分かった。

セッション3 地球の平和は私から

- ・平和は、決心さえすれば、感じる事ができ、伝えられるということがわかった。
- ・私たちが感じた平和が何なのかわかったし、マッサージをしてくれた友人の温かい心が感じられた。家族にも伝えたい活動だ。



セッション4 世界難民、みんな一緒に暮らそう

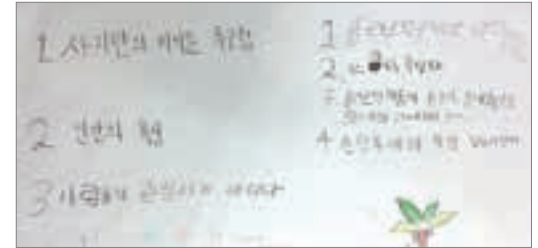
- ・イス取りゲームで勝って賞品をもらい、新聞紙ゲームでは勝っても賞品をもらえなかったが、新聞紙ゲームのほうが喜びが大きかった。
- ・自分のために競争するより、人と協力するほうが、より有益で本当に幸せになれると気づき、難民をどう見るべきか考えるきっかけになった。

セッション5 「違い」は間違いではなく、力だ

- ・友だちと私の外見の違いや考え方の違いなどを見つけたり、他の国と韓国の文化の違いがわかった。そして、このような文化の違いを認められる人間になっていくみたいでよかった。
- ・先進国や大国の人は私たちよりも優れていて、発展途上国の人は私たちよりも遅れているという先入観があったが、その先入観を捨てられた。

セッション6 地球はみんなのもの

- ・人々が動物を虐待して働かせ、お金を稼いでいるということが衝撃的だった。私は絶対に動物を虐待しない。
- ・普段、私が何気なく捨てているゴミが地球の多くの動物を傷つけていたことがわかり、とても驚き、申し訳なく思った。今後は、楽をしようという欲を捨て、面倒だという気持ちも捨て、ゴミを減らし、ゴミの分別もしっかりして、動物を保護して一緒に暮らす地球をつくる地球市民になる。



セッション7 私たちは地球経営者

- ・地球市民とは何か、何をすべきかを知り、地球市民は難しいものではなく、実践しやすいということがわかった。
- ・私が直さないといけない点や配慮したり考えるべき対象が誰かがわかった。



脳教育コンサルティング 地球市民教育セミナー

<第66回国連NGO会議：世界市民教育>韓国開催記念



国連広報局（DPI）登録NGOとして、5月30日から韓国・慶州で開催された「第66回国連NGO会議：世界市民教育」開催を記念し、世界市民教育の重要性を伝えるために、一般成人を対象に「地球市民教育セミナー」を行いました。脳教育オリンピック韓国大会と同時開催し、生徒と保護者、一般市民約1,000名が参加し、大きな関心を集めました。

21世紀の急激な変化と新たな環境の中で、子供たちに「人類共同体の構成員として共生するために必要な価値と態度を教える教育」として、世界市民教育の趣旨と具体的な教育方法を紹介しました。特に人工知能に代表される第4次産業革命がもたらす世界的な変化を前にして、今の子供たちが人間として「私は誰か」を知り、地球共同体を中心とした価値観をもつように教育すべきだと強調しました。地球市民教育セミナーの参加者は、地球市民として行動し教育すると決意を固め、「地球市民保護者同盟発足式」に参加しました。

14都市 | 1,000名参加

14  1,000 



「地球市民保護者同盟発足式」に参加した保護者の感想

「地球問題が深刻に心に響いた。子供も親も、みんなが受けるべき教育だと思う。子供が自分のことだけ考えるのではなく、周りに気を配り幅広く考えられる子に育ってほしい」パクさん

「自分の子供だけでなく、私の生徒にも伝えたい。私たちはみな一つにつながっていることが分かって、行動に移せる本当の世界的なリーダーに成長させたい。ゴミの分別、紙コップを使わないなど、小さなことから生活の中で実践しながら『私は地球市民だ』という意識で行動することが大事だと思う」ハさん

「普段、地球という対象にそれほど関心があったわけではなかったが『地球と私は別々ではない』と感じた。これまで冷酷で情のない教育システムの中に自分の子供がいることをかわいそうに思っていた。しかし、今、脳教育によって、より大きな意識で自分だけでなく地球まで救える人材を育てられるという希望が見えた」イさんの母親

「もともと地球を思い、環境や将来について考えていたが、このようなよい機会をもつことができ、

改めて地球市民として私ができること、地球市民意識を実践できる子供に育てられるような会話と体験を実践すべきだと気づいた。私の子供が、自分だけでなく、自分と人類と地球のことを考えられるような人間に育つよう、まず私から実践していこうと決心する貴重な時間になった」キムさんの母親

「未来を生きていく子供たちに『No Plan B（代案なし）』の地球を譲り渡すしかないという厳しい現実を知った。現在の環境が少しでもよくなるようにして、適応して生きていける方法を知り、大切な地球と人類のために、よりよい環境の中で一緒に生きていける地球経営者に育てたいという願いを抱くようになった」ジョンさんの母親

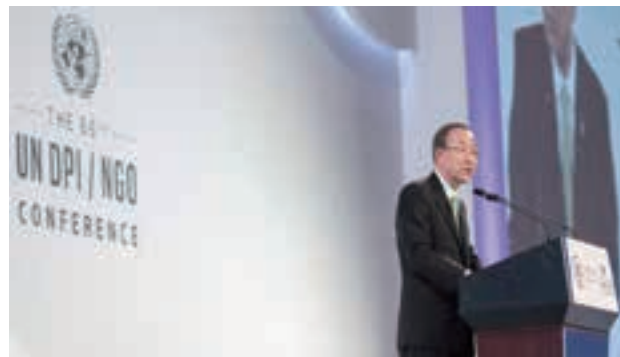
「地球温暖化と環境破壊のすべては、私たちが引き起こしたことだと知った。次世代の子供たちに荒廃した地球を引き継がないように、まず私からもっと地球を愛し、子供が実践できるように努力しよう。苦しがる地球がとても痛々しく見えて心が痛むが、今からでも健康を取り戻してあげようと心に誓った」ハクさんの母親

第66回国連NGO会議参加

「世界市民教育：国連持続可能な開発目標の履行のための協力（Education for Global Citizenship: Achieving the Sustainable Development Goals Together）」というテーマで、アジアでは初めて韓国・慶州で国連NGO会議が開催されました。2016年5月30日から6月1日までの2泊3日間で行われたこの会議に、国際脳教育協会は国連広報局（DPI）登録NGOとして、世界市民教育指導教員、世界市民教育の揺籃 ベンジャミン人間性英才学校の生徒、20代青年の人生学校 ベンジャミンギャップイヤー、日中韓地球市民青年クラブのメンバーと一緒に会議に参加しました。

質の高い教育のための利用しやすく安全な学習スペース、持続可能な開発目標の履行のための融合人材教育（STEAM）活用、未来世界市民としての児童・青年、地球管理者としての世界市民をテーマにしたラウンドテーブル、そしてNGO団体ごとに44のワークショップを行いました。

講演会場の外に設けられた空間で、国際脳教育協会は、約30人の脳教育関係者とともに世界市民教育と脳教育の融合の方向性について話し合いました。世界市民教育が目指す普遍的価値と地域・文化的多様性に接し、参加者は「会議を通して、世界市民教育の価値と必要性について同意を得られたと思う。しかし、具体的な推進にあたっては、それぞれ国ごとに経済的、文化的障害が多い。世界市民教育が成功するためには、人権、平和、難民問題などの国際問題の認知的理解も必要だが、まず教師と生徒が自ら平和を体験して、地球や人類と一つにつながっている存在だと共感する教育が必要だ。脳教育にもとづく世界市民教育を学校現場に適用し、教員研修を行いながら、その可能性を確認した」とし、世界市民教育が追求する価値が根づくように、脳教育との協力シナジーの必要性に大きく共感し、実用化を模索していきます。



国連NGO会議参加レポート



日中韓地球市民青年クラブ ノ・ジヒョン

今年2月に済州島で行われた、国際脳教育協会主催の「日中韓の地域経営ワークショップ」で、地球環境、平和、青年、脳について話しあい、体験した経験をもとに「日中韓地球市民青年クラブ」を結成した。この主なメンバーが国連NGO会議をきっかけに慶州で集まった。

開幕前日に行われた青年のためのユース・コーカス（Youth Caucus）で、ハン・ビヤ氏は「今、私たちの時代は『地球村（Global village）』ではなく、『グローバル・ハウス（Global house）』の概念に拡張した」と語った。人類は、地球という家の「一つの大家族」ということだ。スマホの技術が発達し、持っていない人がいないほど普及した。しかし、コミュニケーションと共感がスムーズではなく、私たちは一つだという認識が広がっていないのが現実だ。世界の多くの人々が、隣の部屋にいる家族の悩みや問題を自分のことのように感じたり、共感があったり、責任を感じられたら、もっと仲良く平和な地球家族になれるんじゃないかと思った。

潘基文国連事務総長は演説で「世界を変えられる力をもつ青年のエネルギーが重要」だと何度も強調した。国連事務総長の話を聞きながら、これからは本当に青年が率いていく世界になる、そのとき目覚めた青年たちが描く、希望に満ちた世界をつくっていけると感じた。

また、地球で暮らす多くの人が、自ら平和を考えられる省察力を引き出す教育が必要だと思った。私は幼い頃から脳教育を受け、常に地球という大きな価値の中で自分を省察し、内面にある本来の価値を見つける能力を育ててきた経験から、脳教育のような質の高い教育が必要だと感じた。

最近の社会は、高い失業率のせいで基本的な生活を考えるだけで精一杯なため、地球と人間が一つだということまで考える余裕がない社会になった。だから、今回の国連会議の「世界市民教育」というテーマを、より重要な価値と位置づけたようだ。また、世界の人々が瞑想で自分自身を愛する方法を知ることにより、自分を生存や労働力としての価値ではなく、もっと価値のある人間だと思えたなら、「世界平和」という意味に一步近づけると思う。

国連NGO会議で、地球と世界の平和に関心のある人々が一堂に会し、情熱的にディスカッションした。教育の重要性を知り、包容力と寛大さで地球上の難題を解決することに、誰もが同意した。しかし、具体的で実践的な解決方法については、さらなる模索と構想が必要だ。根本的な問題解決のための具体的な絵が見えず、限界を感じた。明らかなことは、今後、世界と地球を変える行動は、青年の役割であり、責任であると同時に、特権だと学んだ意味深い時間だった。

脳教育融合コンサルティング ベンジャミンギャップイヤー 世界市民青年講師ワークショップ



現職教師・講師対象のアドバンストワークショップに続き、ベンジャミン人間性英才学校との共催で、ベンジャミンギャップイヤー青年対象の世界市民青年講師ワークショップを韓国の仁川と釜山で行いました。地域社会での教育ボランティア活動を通して世界市民意識を普及しようとしている青年たちのために用意した特別課程で、計45人が参加しました。

一方通行の講義式授業ではなく、インターネット検索や知識の共有などによる水平連携を促せるようなワークショップを運営し、参加者のよい反応が得られました。また、現職教師とともに世界市民教育のテーマ別授業を計画し、テスト運営を試みることにより、今後のボランティア活動のための自信を与えてくれました。また12月27日には、ワークショップ参加者の要望によりアドバンストワークショップを行い、実際の活動上の課題と解決策を共有しました。



ワークショップ参加規模

3回 | 参加者52名

3 52

2016. 7. 10	18名
2016. 8. 27	46名
2016. 12. 27	7名

参加者感想

「自分だけではなく、世界や地球を中心に生活しよう、という思いがより強まった。地球のために駆けていくという、情熱的で美しい多くの青年たちと一緒に活動できて、ありがたいし幸せ」
釜山ワークショップ参加者 イスビン

「地球の問題が、漠然とした、かけ離れたものではなく、肌で感じられ、実際問題として迫ってきた。普段はなかなか話し合うことがないが、積極的に深くディスカッションできる機会を得て、地球意識をもつ市民に成長できた。体験を通じた知識が最も役立った」釜山ワークショップ参加者 ファンソンゴン

「世界市民教育は、地球を生かすために必要な教育だと感じた。これを伝えて、世界を生かすのが自分の役目だと自覚した。地球市民教育を受けることによって、この教育を教えるようになると自分が発展できるという新たな自覚があった。教えながら、自分についての考えも整理できるという講師の言葉が心に響き、私も講師になりたいと思った」
仁川ワークショップ参加者 ヤンギョンファン

ベンジャミンギャップイヤーは、ベンジャミン人間性英才学校が20代の青年を対象に運営する教育課程で、自分と世界に役立つさまざまなプロジェクトを自ら企画、運営してみることによって、脳のオペレーティングシステム(Brain Operating System)を体得できるように構成されています。

世界市民青年講師活動成果

生徒数643名 | 授業時間84時間

643 
84 

ソウル市オグム中学校	20名	18時間
京畿道ホゴク中学校	52名	36時間
仁川市ソnfファ女子中学校	16名	12時間
仁川市ブグァン中学校	210名	2時間
仁川市マンジュ女子中学校	20名	2時間
仁川市ドファ小学校	260名	2時間
忠清北道ヒョンソク中学校	35名	9時間
忠清北道忠北師範大学付属中学校	30名	3時間

講師感想

こんなに素晴らしい価値観を子供たちに伝えられる機会が与えられて、とてもありがたくて喜んで授業を準備した。そして毎回、自分について新たな発見があった。バスに乗っているときは普段、ぼんやりしたり、SNSで友達にメッセージを送ったりしていたけど、今は立っていても、次の授業の流れをシミュレーションしている私がいた。「私って、こんなにマメで責任感が強かったっけ？」という思いがして、「私もこうなんだから、他の人にもできるはず」という確信がわいた。

仁川ベンジャミンギャップイヤー イギョンウン

私は大学院で地球経営を専攻している。瞑想や呼吸による自己省察や、体感したり、脳を感じることで、子供たちがたくさん変化するのを見た。しかし、韓国の子供たちは、自分で選択して活動する機会があまりない。それで「君が地球を生かすリーダーだよ」こんな言葉が心に響かないみたいで、

とても残念だった。今後は、学校内での授業が校外のボランティア活動につながり、子供たちが選択した活動を通じて変化をつくっていく喜びを味わえるようにしてあげたい。

京畿ベンジャミンギャップイヤー キムジオン

子供の頃、友人との関係よりも競争が大事と聞かされて育ってきたけど、ちっとも幸せではなかった。私と同じように競争の中で生きている子供たちがかわいそうで、よい価値観を伝えてあげたくて参加することにした。授業時間にメイン講師が生徒に質問するたびに、私も一緒に考えるようになった。「地球を守るためにできることは何だろう？」という質問に、私の担当クラスで「歯磨きするときにコップを使って水を節約しよう」というアイデアを出したら、みんなが生活の中で実践してくれてうれしかった。ソウルベンジャミンギャップイヤー イユリ



〔活動事例〕 忠北師範大学付属中学校

国際脳教育協会の青年対象世界市民講師ワークショップを履修したベンジャミンギャップイヤーの青年が企画したワークショッププログラム。若者らしい新鮮な発想で、世界市民教育の困難なテーマをゲームで簡単に解決し、参加者たちが熱く反応しました。「机の前に座って聞くのではなく、体を使って体験する特別な授業」と参加青年講師が紹介したこのワークショップは、環境、人権、平和、グローバル化、文化の多様性の5つのグループにわかれ、それぞれジグソーパズル、イス取りゲーム、手遊びなどのゲームで、テーマを体験する時間を提供しました。

- 形態 中学校自由学期制 テーマ選択活動
- 参加生徒 1年生30名
- 担当教師 ワン・スレ教師
- 講師 ベンジャミンギャップイヤー青年講師6名
(キム・ジオン、ノ・ジヒャン、シン・ヒョジェ、パク・ジュソン、イ・ドンウン、ホン・ジョンピョ)
- 教育日 2016年10月8日 (3時間)
- 教育内容 環境、人権、平和、グローバル化、文化の多様性など、世界市民教育のテーマをゲームで体験する

脳教育情報普及

世界脳週間脳教育セミナー

人間の脳の重要性と価値を伝えるために世界60カ国が参加するグローバルアクション週間



「世界脳週間 (World Brain Awareness Week)」は、人間の脳についての理解を助け、一般人に脳研究の重要性を伝えるために1996年アメリカでの初開催以来、毎年3月の第3週を世界脳週間と定め、世界60カ国で実施されています。国際脳教育協会は、設立目的に従い、脳教育の価値を普及するために、毎年3月に世界脳週間を記念して脳教育セミナーを開催しています。

2015年13カ所 | 2016年17カ所 | 2017年9カ所

13 2015 17 2016 9 2017

2015年13カ所、2016年17カ所、2017年9カ所と、年平均13カ所で約1,000名の市民が参加する脳教育セミナーを、協会の諮問機関、協力パートナー機関と共催しています。年初めに全体協議によって、世界脳週間脳教育セミナーのスローガンを決め、セミナー日程と講演テーマを協議して決定します。スローガンは、2012年「非暴力、情緒、そして瞑想」、2015年「人間性コーチング」、2016年「人間、脳、そして地球」、2017年「自然知能、感情、人間性英才」など、実用的なテーマから徐々に共通の価値を反映したコンセプトに変化しています。セミナーは、一般市民対象の無料講座で、参加講師も才能寄付で参加します。

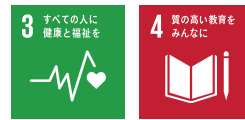
世界脳週間記念脳教育セミナー (2015～2017)

2015	スローガン 人間性コーチング 期間 2015年3月10日～4月17日 場所 13カ所 (ソウル2カ所、富川、軍浦、盆唐、永川、大邱、忠清北道、馬山、釜山、広州、亀尾、全羅北道) 参加機関 各地域脳教育協会、ブレイントレーナー協会、ブレインワールド、CHANGE TV、BR脳教育
2016	スローガン 人間、脳、そして地球 講演テーマ 10年後、子供の未来を変える教育トレンド／なぜ人間性をたたくと創造性が開花するのか 期間 2016年3月16日～25日 場所 17カ所 (ソウル2カ所、京畿道2カ所、仁人、忠清北道、忠清南道、広州、順天、大邱、浦項、亀尾、昌原、原州、大田、全羅北道、釜山) 参加機関 国際脳教育協会、国際脳教育総合大学院大学、グローバルサイバー大学、韓国脳科学研究院、ブレイントレーナー協会、各地域脳教育協会、BR脳教育、ブレインワールド
2017	スローガン 自然知能、感情、そして人間性英才 講演テーマ 人工知能の時代、自然知能を目覚めさせる／脳をよく知っている親、脳をよく使う子供／子供の教育、スピードより方向だ 期間 2017年3月14日～24日 場所 9カ所 (ソウル3カ所、富川、清州、牙山、昌原、原州、釜山) 参加機関 国際脳教育協会、国際脳教育総合大学院大学、グローバルサイバー大学、韓国脳科学研究院、ブレイントレーナー協会、各地域脳教育協会、BR脳教育、ブレインワールド



脳教育情報普及 脳教育専門誌『ブレイン』

2006年創刊の隔月誌、韓国脳科学研究院と国際脳教育協会が共同発行



国際脳教育協会は、設立目的にしたがい、脳教育の価値を広めるために協会化学技術部門の諮問機関である韓国脳科学研究院 (KIBS, Korea Institute of Brain Science) と脳教育専門誌『ブレイン』を共同発行しています。韓国脳科学研究院は、2007年国連経済社会理事会 (ECOSOC) 協議資格を取得し、1990年に設立された脳活用分野重点研究機関です。

雑誌『ブレイン』は、2006年に創刊された、韓国で唯一の脳専門雑誌です。ブレインメディアのウェブサイト (www.brainmedia.co.kr) で雑誌の記事に加えてオンライン脳教育コンテンツを提供し、ポータルサイトのニュースサービスである、NAVER、Daum、NATE、googleとのニュース検索提携によって記事を提供しています。韓国650カ所の公共図書館や大学図書館にデジタル雑誌でコンテンツを供給しており、大型書店やeBookでもサービスしています。また、国際脳教育協会の諮問機関及び協力パートナー、賛助会員に協会誌として配布しています。

脳教育の価値を高めるとともに、様々な脳教育コンテンツ普及のために、諮問機関及び協力パートナーの協議で毎年、年始めに3つのキーワードを決めています。毎号、集中レポートのテーマを決め、深く掘り下げた記事を提供することにより、社会の流れを反映した様々なコンテンツを制作し、提供しています。

- ・ポータルニュース記事年間100万ビュー
- ・韓国公共図書館、大学図書館約650カ所にデジタル雑誌供給
- ・世界10カ国の協力パートナー機関に提供

650 100万



『ブレイン』年間キーワード (2015～2017)

2015年のキーワード：自然治癒、人間性、人工知能

2016年のキーワード：人工知能、脳波、感情管理

2017年のキーワード：自然知能、感情、人間性英才

『ブレイン』集中レポート各号のテーマ (2015～2016)

50号：平和教育 脳教育

51号：バーンアウト（燃えつき症候群）時代の脳管理法

52号：感情管理、脳の中に答えがある

53号：これからは自然治癒力だ

54号：脳使用説明書をもっていますか？

55号：創意力、未来人材の条件

56号：2016、3つのキーワード：人工知能、脳波、感情管理

57号：人工知能時代と教育の未来

58号：脳教育、世界市民教育を語る

59号：「第2の脳」を目覚めさせる

60号：今はメンタルケア時代

感情管理をどうしていますか？

61号：2017、3つのキーワード：自然知能、感情、人間性英才

62号：人工知能時代、自然知能を目覚めさせる





運営の持続可能性

96 会計の透明性

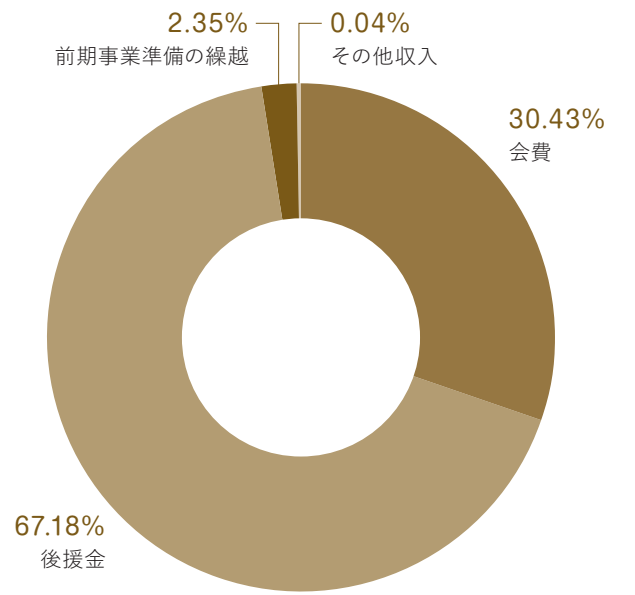
100 安定的かつ効果的な募金

101 後援者管理

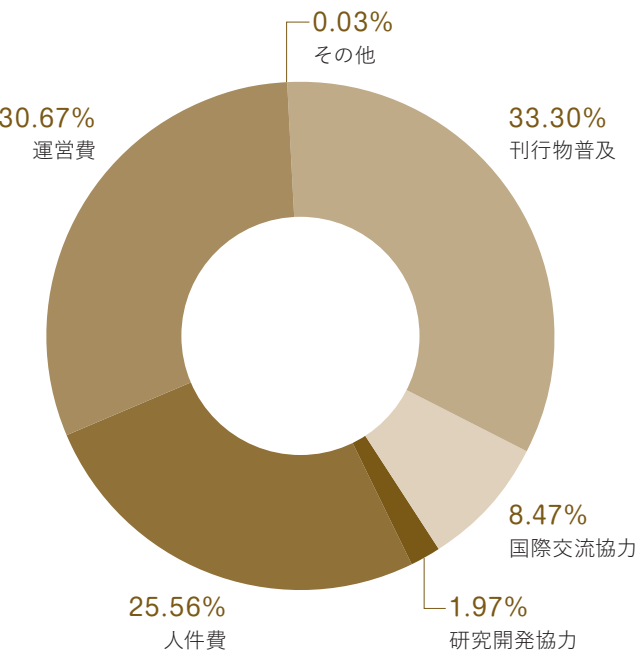
会計の透明性

2015年決算

収入内訳		2015年決算	比率(%)
会費		22,923,000	30.43
後援金		50,610,000	67.18
その他収入		30,694	0.04
前期事業準備の繰越		1,771,232	2.35
合計		75,334,929	100



支出内訳		2015年決算	比率(%)
目的事業	刊行物普及	30,175,704	33.30
	国際交流協力	7,676,875	8.47
	研究開発協力	1,781,580	1.97
人件費		23,166,530	25.56
運営費		27,795,257	30.67
その他		28,451	0.03
合計		90,624,397	100



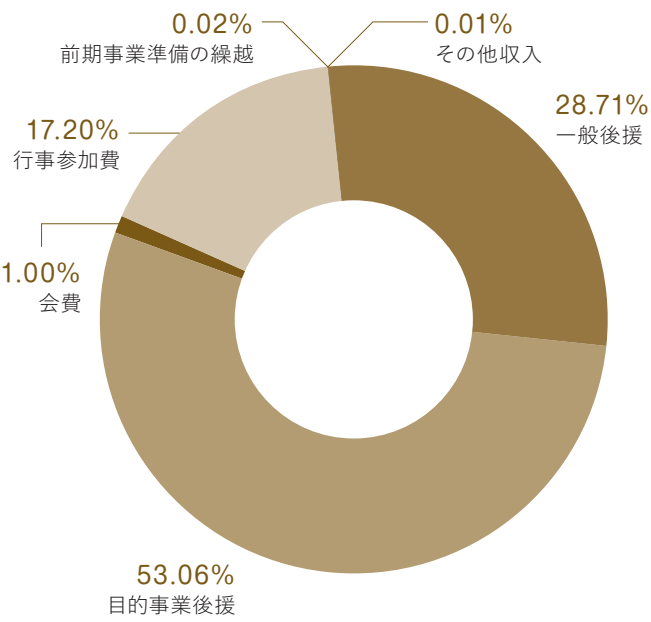
透明性向上のための取り組み

国際脳教育協会は、脳教育の価値に共感し、広めるために参加したいという個人や機関の後援金で運営されています。透明な財務運営のため、以下の通り努めています。

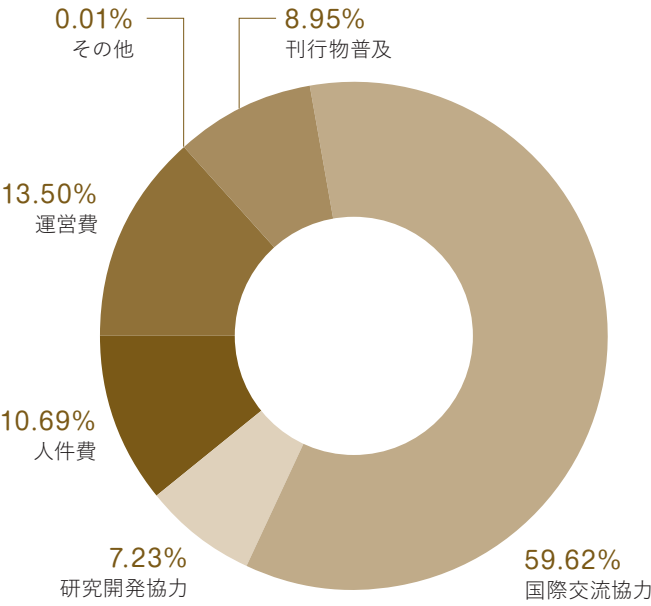
- 1. 年度の主な事業を諮問協力委員会との協議によって決め、年初めに開かれる理事会と総会で事業と予算について最終決定が行われます。
- 2. 年1回、会計監査および決算残高勘定を外部の会計事務所を通して実施しています。
- 3. 企画財政部指定の指定寄付金団体として、毎年、寄付募金額と活用実績を国税庁のホームページと機関のホームページで公開しています。

2016年決算

収入内訳		2016年決算	比率(%)
会費		2,115,000	1.00
一般後援		60,710,000	28.71
目的事業後援		112,192,290	53.06
行事参加費		36,356,000	17.20
その他収入		27,280	0.01
前期事業準備の繰越		37,611	0.02
合計		211,438,181	100



支出内訳		2016年決算	比率(%)
目的事業	刊行物普及	20,119,915	8.95
	国際交流協力	134,089,455	59.62
	研究開発協力	16,253,940	7.23
人件費		24,042,107	10.69
運営費		30,369,588	13.50
その他		13,708	0.01
合計		224,888,713	100



内部監査報告書

社団法人国際脳教育協会理事会御中

本監査は、社団法人国際脳教育協会の2015年1月1日から2016年12月31日までの会計および業務に関する事項を監査しました。会計監査は、法人から提示された関連帳簿や書類などが、一般的な会計手続きに基づいて正しく会計処理されたかを検討し、業務監査は、法人が提示した関連帳簿および業務書類等の検討、理事会やその他の会議に出席して照会するなどの方法で確認されました。

会計監査の結果、特別な意見は発見されず、監査時に見つかった会計的エラーは、財務諸表に修正を反映して処理するように措置し、会計の改善に関しては別途、会計担当者及び管理者に報告しました。

上記事項を除いては、社団法人国際脳教育協会の財務内容は、一般的に認められた会計基準に基づいて適正に行われたことが確認され、事業活動と業務の処理などは、法人の定款に基づいて安定的に行われたことが確認されました。

2017年4月12日

国際脳教育協会 監事 ユ・ビョンイル



国際脳教育協会 監事 ユ・ソンモ



損益計算書

第11(当)期 2016年1月1日～2016年12月31日
第10(前)期 2015年1月1日～2016年12月31日

団体名：(社)国際脳教育協会 (単位：ウォン)

科目	第11(当)期		第10(前)期	
	金額		金額	
I. 売上高		211,373,290		73,533,000
寄付金収入	172,902,290		50,610,000	
協会費	2,115,000		22,923,000	
行事費収入	36,356,000		0	
II. 売上原価		0		0
III. 売上総利益		211,373,290		73,533,000
IV. 販売費と管理費		224,875,005		90,595,946
職員の給与	21,240,000		19,740,000	
ボーナス	200,000		200,000	
福利厚生費	815,440		551,270	
旅費交通費	872,960		370,100	
通信費	820,735		778,442	
税金と公共料金	939,030		853,660	
支払賃借料	7,704,972		7,704,972	
保険料	731,080		482,560	
運搬費	0		2,208,010	
図書印刷費	82,500		10,800	
会議費	870,500		66,400	
消耗品費	1,372,930		676,050	
支払い手数料	13,262,101		11,200,750	
広告宣伝費	188,215		0	
建物管理費	2,620,365		2,690,013	
無形固定資産の償却	904,200		753,500	
退職年金	1,786,667		2,675,260	
刊行物の発行普及	20,119,915		30,175,704	
国際交流・協力	134,089,455		7,676,875	
研究開発協力	16,253,940		1,781,580	
V. 営業損益		13,501,715		17,062,946
VI. 営業外収益		64,891		1,801,926
受取利息	13,705		24,451	
固有目的準備金収益	37,611		1,771,232	
雑収益	13,575		6,243	
VII. 営業外費用		13,708		28,451
固有目的準備金転入	13,705		24,451	
雑損益	3		4,000	
VIII. 税引前損益		13,450,532		15,289,471
IX. 法人税等		0		0
X. 当期純損益		13,450,532		15,289,471

安定的かつ効果的な募金

一般後援と会費に依存していた収入構造から、2016年には、目的事業の後援の割合を高め、新しい事業の発掘に拍車をかけることができました。脳教育の国際社会普及という共通の目標のために、財政支援と事業遂行の専門知識を交換する効率的なパートナーシップを結びました。今後、より多様な方面に目的事業後援を増やしていく一方で、パフォーマンス管理、および結果の報告の透明性が維持できるように体系化していきます。

[2016年事例]

1. 済州島日中韓地球経営ワークショップ「青年、脳、そして地球」

 5,100,000 ウォン

- 後援金 5,100,000ウォン
- 目的 バリ協定の発効を目前に、日中韓の青年がともに脳教育による地球市民運動の方向性を探る
- 後援機関 ベンジャミン人間性英才学校、ECO JAPAN

2. 第11回脳教育ブレインオリンピックIHSP国際大会開催

 102,875,290 ウォン

- 後援金 102,875,290ウォン
- 目的 IHSPによる青少年国際交流活性化及び地球市民精神体験の機会を提供
- 後援機関 IHSP国際大会参加者

3. 腸脳相関の第一人者 エメロン・マイヤー博士招待セミナー

 4,217,000 ウォン

- 後援金 4,217,000ウォン
- 目的 腸脳相関についての最近の研究動向紹介及び関係機関の研究協力推進の機会を設ける
- 後援機関 一指人間性文化財団

4. [脳教育グローバルネットワーク] ニュージーランド脳教育国際シンポジウム

 66,000,000 ウォン

- 後援金 66,000,000ウォン
- 目的 脳活用の価値を伝えるため、科学、教育学、心理学、医学など、様々な分野のネットワークと学際研究の機会を提供
- 後援機関 一指人間性文化財団

後援者管理



指定寄付金団体の義務の履行

国際脳教育協会は、2014年から企画財政部の指定を受けた指定寄付金団体としての義務を誠実に履行し、後援会員を対象に税額控除を提供しています。また、国税庁の年末精算簡素化電算システムを通じて寄付の領収書を一括提出し、後援会員の年末精算の利便性をサポートしています。

後援者情報管理

- 後援会員の個人情報保護と助成金納付管理の透明性のために、美しい財団、グリーンピース、国連UNHCR協会、最高裁判所など、700以上の機関で使用されている後援者管理、会員管理の専門ソリューションを導入しています。
- ウェブサイトを改訂し、後援者がオンラインで会員情報と寄付履歴を常時確認できるようにしました。
- 後援を中断した方の個人情報は、5年を過ぎると廃棄します。
- 個人情報保護法にもとづき、後援者の同意なしに住民登録番号を収集せず、収集された住民登録番号は暗号化処理にて保管します。

今後の計画

- これまで会員対象に脳教育関連の専門情報を提供するために不定期発行していたIBREA Reportの発行を四半期に1回に増やし、目的事業運営の状況をIBREA Reportで定期的に後援会員に報告いたします。
- 電子メールや電話番号、住所変更により、国際脳教育協会の情報を受け取っていない後援会員のために、ウェブサイトとSNSで継続的に個人情報更新の方法をご案内いたします。

付録

104 国際脳教育協会後援会員

107 第三者検討意見

109 NPO持続可能性報告書ガイドライン インデックス

国際脳教育協会後援会員

国内外に脳教育を普及し、社会的価値を伝えるために協力してくださった後援会員の皆様に心より感謝申し上げます。
国際脳教育協会は、後援会員の皆様の後援金で運営されており、脳教育関連出版物発行及び配布、脳教育関連コンサルティング、海外教育援助、脳教育カンファレンス開催、プログラム研究開発、事務局運営などに使われています。
月額5,000ウォン以上の定期後援会員になられると、隔月発行の脳教育雑誌『ブレイン』をお送りします。また、様々な脳教育情報をメルマガでお受け取りになれます。

後援方法 国際脳教育協会ウェブサイトから「後援する」というバナーをクリックして申請 (国際脳教育協会 www.ibrea.org)

国際脳教育協会後援会員リスト (2017.3)

감효애 강동근 강미경 강미라 강미란 강상익 강성원 강수희 강숙양 강노을 강영숙 강윤정 강은주 강주영 강준희 강진덕
강춘자 강대성 강대회 강행원 강현숙 강홍련 경은숙 고경숙 고병진 고애란 고영석 고임선 고점숙 공남순 공선임 광명자
곽선웅 곽영철 곽정옥 구옥순 구은경 구자근 구중호 권경희 권경희 권기선 권대원 권선기 권용태 권은미 권진미 권혜숙
기필수 김강록 김강민 김개령 김건용 김경미 김경숙 김경숙 김경희 김광린 김귀자 김근희 김금자 김남희 김대성 김덕기
김량희 김리라 김명순 김명순 김명중 김미숙 김미순 김미순 김미정 김미정 김미정 김미형 김미혜 김미희 김민서 김민승
김민정 김병삼 김복란 김사원 김상철 김석준 김태령 김선미 김선화 김선희 김성미 김성미 김성희 김성희 김수진 김수홍
김순이 김순자 김순필 김승중 김시성 김신애 김심근 김언정 김연제 김영경 김영순 김영신 김영애 김영옥 김영희 김옥순
김완주 김용규 김유생 김유성 김유순 김윤정 김윤정 김윤주 김은녀 김은숙 김은영 김의량 김의식 김이자 김인숙 김인순
김인순 김인이 김장근 김재경 김재광 김재옥 김정란 김정은 김정옥 김정은 김정자 김정희 김제원 김종갑 김종덕 김주매
김주연 김주영 김단영 김중열 김지연 김지하 김진미 김진수 김진숙 김진용 김진환 김진희 김창환 김채숙 김태연 김하옥
김한진 김해성 김향계 김현옥 김현우 김현화 김혜경 김혜균 김혜선 김혜영 김혜영 김혜진 김호석 김흥기 김효정 김효준
김흥걸 김희명 김희숙 김희준 나여진 남미자 남소영 남태우 노대현 노인옥 노재영 류동수 류재연 류지현 류희경 명광래
모종영 문성준 문순주 문은경 문지원 민병철 민슬기 민옥경 민정희 민홍우 박기란 박명희 박문희 박미영 박미영 박미진
박보라 박부열 박상진 박선규 박선에 박선정 박성현 박성현 박세현 박순영 박영희 박용규 박용일 박은경 박은미 박은영
박은주 박은희 박이분 박재숙 박재연 박정규 박정배 박정숙 박정옥 박정준 박종찬 박종현 박종호 박주연 박주혁 박주형
박중보 박지영 박지용 박진규 박진양 박창영 박창용 박철규 박현미 박현숙 박현정 박형운 박혜숙 박화곤 박화실 박효정
박희정 반종률 방은진 방서인 배병훈 배선옥 배송희 배수진 배수현 배순심 배은숙 배정운 배종식 배준한 백정훈 변근주
변복희 복경숙 봉신영 부유석 서경수 서경숙 서남미 서병자 서인영 서지영 석상순 선윤희 설성미 성계순 성보훈 성영희
소정아 소현정 손경미 손미화 손복미 손지아 손현영 송경남 송경식 송병석 송연희 송은경 송인경 송지나 신경대 신미옥
신미옥 신상옥 신선미 신선영 신선희 신소영 신수명 신승국 신은숙 신은정 신은희 신재순 신정규 신준동 신현옥 신형민
심맹희 심영혜 심인숙 안경원 안병관 안보영 안석중 안선영 안순례 안승찬 안영미 안용선 안용숙 안종희 안지영 안진경
양동운 양상훈 양서인 양원조 양정숙 엄덕현 엄운섭 엄운숙 여희숙 연소현 엄현아 오영희 오임생 옹미영 우교숙 우상호
우순실 우승명 원수라 유기정 유명하 유미현 유병국 유임현 유정희 유지숙 유현숙 유홍근 윤두환 윤미영 윤미영 윤석완
윤선아 윤은정 윤은주 윤인수 윤정미 윤정인 윤정희 윤혜경 이강민 이건도 이경아 이경자 이경화 이기복 이남숙 이노경
이대열 이동실 이말정 이명규 이명숙 이명주 이문규 이미경 이미경 이미란 이미향 이민철 이백련 이병택 이상재 이선화
이선희 이성민 이소영 이소현 이수경 이수관 이수연 이수향 이순미 이승용 이승진 이승호 이시근 이양미 이에스더 이연경
이연주 이영민 이옥희 이용주 이유미 이윤광 이은미 이은영 이은주 이인영 이인우 이장희 이재정 이재철 이재형 이재훈

이정림 이정미 이정미 이정숙 이정옥 이정옥 이종금 이종명 이준호 이지수 이지영 이지영 이지윤 이진선 이진수 이창진
이철규 이춘애 이치민 이혜성 이현선 이현숙 이현아 이현정 이현주 이혜윤 이홍인 이화연 이화정 이효섭 임경순 임경희
임요진 임병열 임영미 임윤희 임은희 임정명 임종일 임진영 임태우 임호장 임화수 임효일 장고웅 장세인 장세환 장연화
장윤영 장인순 장정미 장진석 장진수 장혜옥 전국일 전금숙 전명숙 전순숙 전영신 전용희 전지현 전진녀 전진호 전효금
정경란 정경주 정규재 정규진 정균완 정난영 정명주 정미옥 정미영 정복순 정상식 정선영 정성률 정성욱 정승영 정양자
정영구 정영애 정옥화 정원호 정유창 정윤곤 정은진 정의조 정종현 정지현 정혜영 정훈희 조규자 조미자 조병준 조상은
조선미 조선영 조성기 조양명 조영순 조영옥 조정식 조태임 조현미 조준모 주경숙 주명숙 주명자 주미경 주미진 주선숙
주영택 지말순 지성순 진길성 진미혜 차병준 차연실 채영재 천미진 천수형 최경민 최경옥 최경임 최경희 최기숙 최동석
최미정 최미혜 최미화 최봉래 최부석 최선열 최선화 최성만 최성희 최순남 최순복 최영미 최용석 최용욱 최용재 최윤리
최인미 최전일 최정순 최종근 최종섭 최춘숙 최현경 최현철 최효준 태호진 피자영 피혜선 하경희 하만우 한경수 한경애
한동수 한미옥 한상성 한승용 한영임 한정득 한현구 한혜영 허수빈 허숙자 허영옥 허필영 허희수 현은정 현종훈 홍미영
홍성아 홍승우 홍숙은 홍순이 홍용하 홍정옥 황미경 황보은 황연록 황영하 황욱기 황욱순 황정숙 황종선 황채연 황현숙
곽은혜 김동석 김동식 김명자 김미희 김순중 김영재 김윤동 임수연 김현 김혜정 김성진 박낙준 박선호 박신명 박영희 신명선
신삼수 양소영 유진수 이주아 이주호 임수연 임종섭 임희수 정금옥 정병일 정상식 김혜영 김혜정 주영택 장은심 박문수
장은경 조병훈 한진영 이용갑 강순영 이성연 김옥자 신현례 이학규 송기재 박세현 장은태 김윤주 김진경 박용호 임영남
김순선 추정순 심민아 박영덕 임명숙 오윤정 장덕수 정운순 윤정미 어지영 김민숙 김봉규 조혜진 전부현 목지연 강문수
조경희 김계문 김장철 박정선 최복기 고복신 김태석 손기봉 장희연 유순화 정순영 박진우 정응순 공은자 김아실 권춘자
이유순 남궁은하 김애희 권은미 김명중 박광식 박종화 정화섭 김수진 정훈희 이경열 장진성 황현숙 김유경 박종석 하연숙
김기영 김정례 전용희 심재훈 최효준 박시범 김선명 김철 김철우 이선경 이미라 이근자 최금옥 이세정 김재숙 김자영 김명주
한옥봉 윤은영 박유연 윤덕유 이계자 문문희 배경석 강화삼 박종문 김영숙 황정성 진덕석 공광식 이상환 심금숙 김순례
송정호 오이진 김은자 양정숙 이희균 김미경 태운미 임인숙 배장훈 배성훈 소정아 이종구 이지는 이인우 김건용 김유진
이지숙 이지연 조성찬 이동호 왕영숙 박용식 정대홍 차범찬 위영량 강성욱 김보희 전경중 박양희 이은철 김용이 서예재
김정숙 이은주 박홍서 양은하 노지숙 양원영 김상우 홍승천 안동훈 이창수 김점옥 박종호 박향미 정석순 김주선 한관식
박미현 이상겸 최광섭 최영희 박귀선 주연신 강경남 서경화 박동만 이상용 송정민 노인옥 송규민 정화자 권경희 신명용
신미옥 한병석 박시원 김영노 임수연 김연체 최부석 윤은주 염정범 최동석 고순희 박지연 이선구 박희정 황영하 김광원
김병선 김진수 박선정 김현주 박전애 김미정 문영진 박혜원 김옥란 이보영 배병훈 허필영 김종문 이현희 이주연 강선희
최선화 장상철 이강민 임희수 이현주 신선영 박춘봉 김도현 김현화 심은진 최선열 이승모 김경희 민성욱 김지은 신미경
윤정희 정소영 박기완 박수민 김윤정 박수현 안경주 광정옥 김갑년 정금옥 이수경 박기화 황준영 성준호 김경숙 성예지
김태일 이정희 김순필 성문모 정찬심 김영훈 김영희 이정미 김은정 황정숙 최재훈 김효정 방은기 허윤 도정환 강애자 박정희
유홍근 반용완 김대진 김계옥 조영옥 이선에 김영희 한원영 이승택 홍광순 강둘이 장미 감미란 안경진 이성희 방호국
윤진남 정명숙 문명숙 주영자 박미옥 박미화 김진용 소영순 정숙영 김미정 전진희 김진아 이현선 이문창 유점화 김영희
방겸산 김규열 최전일 김남희 유두환 안윤경 김중열 지성순 한선희 이호연 양은애 최기숙 김선금 박정대 박종현 신인철
유지원 강영애 강지연 이미선 김갑정 서소영 김영환 허호영 천미진 김기운 송승미 djaxorjs 이동현 이미애 이수진 이소담
이학용 한정득 최효준 신준동 이미자 김순례 한지는 조현진 강상익 조경자 박성현 신정원 염수용 김현정 윤숙희 장봉수
김대환 안지영 성재업 김영미 배태훈 배수안 김동석 유현숙 배준한 권영주 안승찬 김명선 김혜영 이현각 김윤혜 이항구
조상은 구애순 임선숙 부유석 이재형 강막점 김병주 김복영 오명선 정미현 김순득 이창순 이계훈 백종근 이지윤 송차영
정창배 이미선 류순하 천기복 이종찬 신민선 허금란 백선미 김경수 김상준 이상규 이미옥 신건성 송문숙 김정자 신선미
손영배 민홍금 이갑순 황운옥 황미옥 신지은 신재영 이성열 신원섭 한미현 남영애 한상성 이정희 이윤광 박주연 홍지희
허선옥 장효동 김순애 이화연 김효준 이경민 홍혜진 김강산 이영주 고순덕 장병구 신은숙 장명숙 이활란 김영목 박상진
김윤정 허춘수 신동섭 윤정희 권용찬 김여진 민지은 고병진 김명순 이정희 이은경 방은진 김보희 강윤정 박진양 한예훈
임호장 안상선 김미경 최성희 임경순 송지나 김대원 이견미 김효재 강정희 이정호 김윤정 서미애 김지형 안진경 이경화
이승호 김민자 전영순 강봉도 노부덕 최병규 김남표 조현석 윤정식 손혜정 정희중 노수관 이순덕 강순두 손채은 조재호
이명규 이순희 김현정 구자현 구인회 구효영 이해영 김경임 김유생 최옥경 한정수 김경화 심준원 조강원 채주연 신혜숙
조호진 이은정 권혜영 조용명 박래수 최정매 유임우 유선희 정숙희 이성일 기주연 이주영 이병희 신현종 최중구 박민지
유용근 김세윤 장태영 노형철 이종하 강순이 조철형 전명희 한미나 신동재 유기남 유창수 최은미 한정근 김지현 조남희
이을순 박진규 박주연 김정경 조승현 임미옥 석익근 김경애 김영숙 김경환 정원주 최문신 이현숙 박희문 김선태 김정환
박은주 김승기 장영준 이상덕 김경수 조재영 유호진 오영수 김현석 김후남 김승덕 정희재 김명순 이정주 김혜숙 배귀홍
전종태 이강주 안석진 이영배 김귀현 문옥순 김중래 김주범 노금희 김대욱 김석열 박미자 남은경 황성철 황지민 정영구
이숙재 최정희 강영선 이정순 오민석 권오숙 신희현 성선이 채경순 차미선 이남진 백원식 이화용 염훈자 박계숙 이도연

第三者検討意見

alt.labは「国際脳教育協会持続可能性報告書2016」（以下、報告書）についての検討要請を受け、次のように検討意見を提出します。

目的

この検討意見書は、国際脳教育協会が報告書で公開した団体の主要情報、関連活動、持続可能性の問題が、重大な誤りや偏見を含んでいないかを確認し、報告書の品質向上のためにどのような改善努力が必要か客観的な検討手順を踏み、最終的に検討意見を提示することを目的とします。

検討の基準および制限

alt.labは、AA1000AS（2008）の検証標準の包括性、重要性、対応性の原則にもとづいており、Global Reporting Initiative（GRI）報告原則の4つの項目（ステークホルダーの包含性、持続可能性の状況、重要性、網羅性）を参照し、報告書の検討を進めました。検討業務の範囲は、2015年、2016年の実績を中心とした報告書上の内容に限定されています。提供されたデータ及び情報が正確であることを前提としており、報告書の詳細データの信頼性の検討は行っていません。

主な検討方法

報告書の検討は、国際脳教育協会が提供する関連文書によって、次のような方法で行われました。

- ・NPO持続可能性報告のガイドラインの内容と品質の作成原則を適用するかどうか
- ・報告書の情報の収集とコンテンツ作成の全般的なプロセス確認
- ・報告書内に記述された内容の適合性と表現の適切さ

についての検討

- ・持続可能性の問題の選定と関連技術の内容の適切さの検討

検討結果

alt.labは検討意見書に記述された基準と方法にもとづいて検討を進めており、必要に応じて検討意見に重大な影響を及ぼさない範囲内で報告書を修正しました。検討活動にもとづき、次のような最終検討意見がありました。

包括性（Inclusivity）：組織の持続可能性のために努力する過程で利害関係者を把握し、参加させるか？

- ・国際脳教育協会は、後援者、市民、役員と職員、理事会、諮問機関、協力パートナー、国連関連機構など、6つのグループを利害関係者と定義し、主なコミュニケーションと情報共有チャンネルを報告しました。
- ・国際脳教育協会は、利害関係者を対象にアンケート調査を実施し、主な利害関係者の意見を収集して主な問題を把握しました。

持続可能性の状況：より広範な持続可能性の状況にもとづいて組織の実績を報告しているか？

- ・国際脳教育協会は、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の17の目標と組織の事業を連携して報告するなど、社会全般の問題と組織の活動をつなぎ、報告しようと努めました。
- ・国際脳教育協会は、組織の持続可能性に関する教育と診断を実施し、NPO持続可能性報告ガイドラインにしたがって関連活動と実績を公開しました。

重要性（Materiality）：組織と利害関係者に、重要な問題を把握して報告しているか？

- ・国際脳教育協会は、利害関係者の関心と内部への影響の分析をもとに、主な問題を選び、外部と内部の

구정호 한덕규 김완섭 김광린 김혜정 김영자 현지운 진용완 이오승 지홍철 강금례 장진영 이정희 이종운 김동섭 한현심 김범유 김혜성 손고명 손상태 강순희 강명수 나원민 박경순 서동순 문경미 이근재 이수민 김인선 남명숙 김유진 조명숙 양수 공우태 이근재 신영희 최준희 문규영 윤정원 이광우 이진숙 이상민 전재형 김순희 전해지 정영숙 김정희 허지혜 허영실 장성욱 전수현 유원국 박규용 김정은 박상현 최정태 한기홍 백상훈 고정미 김현미 송충열 전형국 은형표 이해정 김기호 이효심 신영준 오재항 이만재 이종진 이상진 남양우 조순구 이명심 최영철 최경자 정덕기 임말선 김윤흠 손동찬 이진호 김혜영 박정순 김순희 정지형 강명향 손현주 홍금란 신은화 신진영 윤혜정 정해숙 강혜진 박치호 연태우 민경부 차정돌 이지하 이건희 이채규 오순옥 이은숙 김정화 김정복 김영미 양효순 박영미 신현을 조재현 김덕천 강현주 신영심 손경원 권용민 김은정 황금희 이창희 이재철 김선미 진영옥 김양지 서인숙 심춘옥 이희수 차나영 김성호 최화숙 이금희 권순정 이성림 권희은 정현미 심성규 이소민 변지민 변지웅 이지숙 최찬호 김명숙 김유현 김상균 김정은 김홍운 차국희 김윤정 강차임 홍경숙 손미영 방정옥 정인순 김홍구 곽노봉 김상길 이태현 김승규 임문규 이종운 최현 육승은 육태훈 박성현 박성해 김명수 김일여 양환서 강경태 정지숙 김종직 최광수 최형 이성순 조정자 이지훈 최영숙 이명희 이선욱 김정민 최태우 박국희 최치원 최재원 이규숙 유옥영 송상혁 강은영 신명수 조순미 황연록 전수정 김기연 천운 박정혜 김희정 한영희 최창열 이정숙 이산옥 김경진 여운형 여승엽 여승민 문제을 성화목 윤석기 김승식 이경주 표무순 신승한 구계선 원이선 조지원 김혜원 홍연덕 이용익 김종판 강은자 김갑돌 임재휘 김미경 신현성 강성도 신용직 강희창 오옥연 구중호 제승효 이종필 권기현 권오건 권오준 임지원 하태호 권영자 최순자 강건욱 전성현 정구임 안오민 이한직 정길선 이찬우 박희진 안유경 안태경 박호균 권대홍 한일도 김철민 곽상운 홍여림 박현경 김진순 조선욱 김희자 임병근 이희자 박옥경 이종금 김보신 김진주 최준형 김죽자 신동호 최의성 홍성진 황상수 황윤지 신형우 신진섭 신용섭 신은영 이춘태 유지현 박종원 오문석 오분남 최세화 이영민 장경순 고은지 안선주 박다현 홍성희 김순옥 장광수 윤세원 한보라 남명순 이현숙 이운상 최영도 신정희 김수정 한복만 박대권 박진주 김한 박계서 김재영 김유미 남광표 이순옥 최은영 최유진 정시경 김희상 조성일 주진경 김명호 오창호 신동훈 신동민 신동석 김남훈 황현주 김경선 박광민 강병길 오명순 김지섭 오충연 오충제 조병학 민항기 박승우 허연재 조범준 성락기 최준희 choi chantelle 최주희 신창근 김영아 김옥녀 김미나 김창수 김영수 김성완 박정문 이민 김봉욱 이승렬 황덕규 안중환 김정순 안보현 김종목 최수경 박국현 김혜미 김영규 송태호 이기관 임태호 이석희 신성희 김대준 이병규 조영훈 민인숙 김순근 한미옥 김춘분 이용희 오삼식 임미현 박은선 이재영 한병선 안은영 오교진 이재욱 김순기 임귀열 태선영 최경희 여병규 김정은 김민준 김민욱 정다운 박경숙 정종운 이수정 지선미 강호준 원향란 황윤희 김유진 박승훈 염중식 손정현 변정식 문선자 하현진 황환철 이기봉 남정우 김희진 유지숙 김해민 정해경 김미래 박재은 박상욱 이영자 홍석현 김철순 장정자 박현숙 이영주 이충건 이현주 성달호 정진봉 이영자 정응섭 국득남 박종수 전병천 소재연 이접순 주미진 정선희 최인성 최설하 동정화 김규진 정세아 이정무 장은희 최광식 이미숙 이연자 양영수 차윤석 양미영 최상범 김선화 김선자 이재욱 안영옥 공기선 이진복 정운중 양성욱 심기훈 김중대 이수진 이영남 정광연 이상민 김선욱 이명례 이완중 오정교 심민규 심경보 임상혁 이연태 최오숙 안영화 김계범 최수민 최기영 최설하 최선우 최지연 정근영 정재원 정민규 이경아 박민석 오남희 정성훈 배정형 김재영 권오덕 최정희 이원근 이희균 김찬유 우복수 박미희 유달현 김선희 박미숙 이기호 오태석 최신득 최영아 신철호 김동식 김혜미 박경환 김택진 박정재 박치화 김기석 백철기 진중관 송진식 문익정 김인영 박종식 류인용 박미경 양기환 조용섭 김수기 김정희 한규원 정가희 이광재 김몽래 박은희 한주연 황지호 정미숙 홍명옥 이홍분 김돌현 김성태 백찬성 김장곤 이해원 서해안 윤경희 박인순 박희숙 이은정 오해균 장승규 장익진 박순이 최은숙 김선학 황이경 홍화순 송미화 정월영 정예우 이진석 이주석 황명자 박희선 최영순 남기훈 이건구 강숙희 안영환 김보석 윤문숙 강진 최우진 이연실 안경숙 오영주 최현숙 채희영 김을호 유인숙 박현숙 이현주 이영주 김정숙 김의자 신상호 김명순 김정애 김애영 김계영 김운식 공지원 김미라 백경원 김상두 이영기 박태정 이주열 박성국 이원조 이순옥 이용진 이현진 윤성훈 주홍근 임길현 김혜숙 이한양 이지현 김옥진 김경선 이광식 김두임 김승욱 김승민 문동주 김동길 홍지곤 최고은 박미숙 박건순 최재호 배영환 조향린 김경호 양우석 류제형 정미라 한지우 한지범 이선희 김기철 문현숙 이일형 장명옥 차재룡 송미정 엄홍희 김옥남 양평택 양태영 이다훈 이명재 이경미 이경숙 이현주 서인자 김병하 김학명 윤옥식 진기종 장현숙 김은경 김현철 한명희 허영상 오세광 오소희 변길남 조구희 박거환 정민규 황순자 윤영길 한범수 이슬 배종원 김순남 연정주 김경숙 윤영선 김영미 이슬비 조연형 최정영 김시영 김동희 오은한 김중대 황태경 김경환 윤정희 강단경 심혜경 안상우 안동소 한지영 조석보 오길성 강주희 홍기훈 홍석정 양보현 차주엽 민성현 홍현진 장시영 박영동 정진화 정송희 심은경 심창완 정연준 성열익 김희숙 민경아 문은미 이용길 김은지 송예지 김은지 송홍중 신동철 신동환 최수미 이정관 김봉래 이광희 임만섭 김필선 이선녀 김경선 이용화 김소미 송정욱 박종규 객계화 신현숙 조민준 김승모 손혜정 김진천 송미정 김주환 양순옥 조윤경 조윤주 조상현 이정숙 박소영 정호선 김은주 정문규 이상황 한성구 이미연 임진익 신진숙 신영한 박소영 성희경 박세용 안세중 오소영 김지인 박찬애 김성진 김효진 변여송 장재희 태혜숙 이은숙 강효령 김진홍 박현주 장미 김영자 김은하 국민생활체육전국국학기공연합회 강원뇌교육협회 경기뇌교육협회 경남뇌교육협회 충북뇌교육협회

違いを確認し、これをもとに、今後、分析が必要な分野を提示しました。

- ・国際脳教育協会は、重要性分析プロセスを通して導き出された主な問題を含む利害関係者に大きな影響を及ぼしたと判断される問題について、報告期間内の主な活動を公開しました。

対応性 (Responsiveness)：組織の持続可能性の成果に影響を与える利害関係者の関心問題に対応しているか？

- ・国際脳教育協会は、利害関係者の関心の問題と期待を把握し、これに対応するための活動と関連計画を報告書に公開しようと努めました。
- ・国際脳教育協会は、「組織運営の持続可能性」の問題について、今後の活動計画を提示して実践意志を公開していることを確認しました。

アドバイス

alt.labは、より持続可能な組織になるための国際脳教育協会の努力を評価し、検討結果に影響を及ぼさない範囲で、次のアドバイスを提示します。

- ・国際脳教育協会が今回の持続可能性報告書発刊に際し、運営の持続可能性を検討し始めたのは肯定的です。特に協会運営に関して利害関係者の声に耳を傾けたことは、利害関係者の参加とコミュニケーションが活性化するきっかけになると期待しています。今後は、他の議論も利害関係者を行うように参加手順を形式化することをお勧めします。
- ・国際脳教育協会が国内外でさまざまな事業を活発に活動していることを確認しました。脳教育への理解を促すための第3章の内容は、協会の基本的な活動を理解するのに役立ちました。しかし、該当部分の内容が前後の報告内容と関連性が薄いように見受けられます。今後は、協会の活動の理解を助ける部分を区別して

提示し、持続可能性の観点での重要な問題と関連する活動成果の報告を充実させることにより、報告書の完成度向上を願います。

- ・国際脳教育協会が国連グローバル・コンパクトのメンバーとして10原則を支持し、国際社会の責任と義務を果たすために努力していることがわかりました。特に、人権、環境など国連グローバル・コンパクトの4分野に該当する教育課程が事業報告に多数含まれていることが確認できました。今後は、内部でも4分野10原則を適用し、組織の持続可能性改善も含めて報告することをお勧めします。



NPO持続可能性報告書
ガイドライン インデックス

●すべて報告 ①一部報告 ○報告なし –該当なし

分野	タイトル	内容	報告	ページ
組織 プロフィール	組織概要	組織の紹介	●	10, 12~17
	組織が追求する価値	組織のミッションとビジョン	●	11
		組織のコア・バリュー	●	11
	持続可能性の追求	持続可能性への関心と組織の関連性	●	3, 4~5, 7, 35~37
	理事会／運営委員会 及び意思決定	理事会／運営委員会の構成と運営状況	●	12~15
		意思決定システムの透明性と効率性のための取り組み	①	12~15
	利害関係者	組織の主な利害関係者の構成	●	20~21
		利害関係者の参加とコミュニケーション	●	22~25
	報告の条件及び特性	報告書概要及び報告範囲	●	表紙裏
		報告書の信頼性向上の取り組み	●	107~108
組織の 持続可能性	財務運営の健全性	財務運営及び財務的健全性の状況	●	96~101
		財務管理のためのシステムと活動	●	100~101
	倫理的組織運営	財務及び運営の透明性と関連の取り組み	●	97~98
		倫理経営／腐敗防止政策と活動	①	4~7
	環境保護	環境汚染低減及び生態系保護の取り組み	①	43~49
		資源節約及びエネルギー低減活動	○	
	人権労働	基本的な労働権利遵守状況	○	
		職員／活動家の保険安全のための活動	○	
		性認知、差別禁止、多様性尊重の取り組み	○	
		職員の満足度と苦情処理の手順	○	
		仕事と生活のバランスと自己啓発支援	○	
		職員他、活動家の待遇及び相互コミュニケーション	○	
	情報保護	個人情報保護及びセキュリティ状況	①	101
	バリューチェーン／影響範囲	バリューチェーン（価値連鎖）／ 影響範囲で持続可能性の取り組み	○	
プログラムの 有効性	プログラムの計画及び管理	プログラムの選定、目標及び計画の設定手順	●	42~93
		プログラムモニタリング及び成果測定の手順	①	40~93
		リスク管理のプロセスと取り組み	○	
	組織の価値との連携性	プログラムの影響を管理する方法と手順	①	35~36, 42~93
	パートナーシップ	パートナーシップ管理状況、期待される効果及び成果	●	20~21, 42~93
	地域社会と利害関係者の 配慮と参加	プログラムごとの利害関係者	●	42~93
		主な利害関係者とのコミュニケーション状況及び結果	●	20~21, 42~93
		プログラムごとの利害関係者苦情処理手順	○	
	人権にもとづくアプローチ	プログラム及び活動に対する人権にもとづくアプローチ	①	7
		人権にもとづくプログラム及び活動遂行の取り組み	①	50~53

